

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		スーパー（店長）	・ポイントカード等の導入により、来客数の増加と客単価のアップが期待できる。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこ自動販売機でのタスポの導入で、コンビニでの買上増加が見込まれる。
		家電量販店（地区統括部長）	・北京オリンピック開催前の薄型テレビの大幅な需要増が見込まれ、全体としての売上も増加する。
		旅行代理店（従業員）	・円高傾向にあることから、海外旅行客が増えることが期待される。
	変わらない	商店街（代表者）	・例年であれば、6月はバーゲン月ということで盛り上がる月だが、今年は洞爺湖サミットの開催もあり、通常どおりセールを行えるかがまだ確定していないので、どうなるか分からない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・3月中ごろまでは悪い数字が続いていたが、その後は売上を回復してきている。現在の状況下では、売上はなかなか伸びないが、今後については同じくらいの売上をキープできるという感触がある。
		百貨店（売場主任）	・春物の動きが良かったこと、また気温の高い日が今後も続くということから、今後、夏物の動きが良くなってくる。
		百貨店（販売促進担当）	・相次ぐ値上げで消費者心理が冷え切っていたが、ガソリンの値下げがそれを緩和する働きをしそうである。3月に、生活必需品ではない春物ファッションが好調に推移したのは、気温が高いという気候要因だけではなく、節約疲れへの反動もあるとうかがわれる。
		衣料品専門店（店長）	・年配客が多く、保険や医療費等の経費が増えて、生活費が高くなることを心配している。そのため、今後についてはなかなか良くならない。
		高級レストラン（スタッフ）	・春の訪れとともに、消費動向が上向いてほしいと期待しているが、景気の高揚感がない。レストランでは、食材や調理用の消耗品が値上がりしており、売れるメニューづくりまでは余裕がない状況である。札幌近郊のピザ店が、イタリア本国の認証を取得して、今後が期待されているが、こういった飲食関係の明るい話題はめったに出てこない。
		旅行代理店（従業員）	・景気の良くなる要因がない。洞爺湖サミットや北京オリンピックなども、業界にとって大きなプラス要因になるとは今のところ考えられない。
		旅行代理店（従業員）	・原油高による燃油サーチャージの高騰などにより、海外旅行に対する印象がより悪くなる懸念される。現在の円高だけでは海外旅行への悪影響をカバーしきれない。
		美容室（経営者）	・今月は売上が伸びただけに、これ以上の伸びを望むのは難しい。今後については、天候次第といった要素も大きい。
		その他サービスの動向を把握できる者	・原油高による諸物価の値上がりから、観光シーズンに入っても需要の冷え込みが予想される。今後についても厳しい局面は変わらない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・4月から食品を中心に幅広い値上げが予定されていることから、生活防衛の傾向はますます強くなり、ファッション関連や飲食店が中心の商店街においてはマイナスの影響が大きい。
		百貨店（役員）	・物価の上昇、原油価格の上昇、円高、株安等の要因に加え、政治があまりにも安定しない昨今の状況に対して、普段関心を持たないような消費者も嫌気がさしている。自分の生活は自分で守るしかないという意識はますます強くなり、生活防衛による消費活動の低迷は顕著になる。
		スーパー（店長）	・今後、更に様々な商品が値上がりすることになる。給与所得が増えないなかで、可処分所得が減ることになるため、景気は後退する。
		スーパー（店長）	・今後の商品の値上げに不透明な部分があり、客の買物動向や意識に不安定な要素がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（企画担当）	・株式市場の軟調、ガソリン価格の混乱などの影響により消費者心理が悪化する。店頭での消費行動もますます価格に敏感になってきていることもあり、生活防衛意識は一段と高まる。
		スーパー（役員）	・消費者の価格に対する関心が極めて高くなっている。原油価格の高騰も影響して、やや買い控えが強まっており、実需も減っている。
		スーパー（役員）	・4月から更に値上商品の品目が増えてくる。一方、値下げするような商品もないため、決して良い状況にはならない。今後については買上点数の落ち込みが顕著になってくる。
		コンビニ（エリア担当）	・マンション工事などの減少により、工事関係者の来店が減っている。マンションや住宅の新築の減少は住宅、家具、電気など周辺事業者に与える影響も大きい。今後こうした状況が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・人口減少、前年の大型工事増加の反動がみられるなか、大型競合店の出店が相次いでおり、当面、食品小売業においては消耗戦を強いられる。前年のように気温が低く推移すれば更に苦しくなる。一方、5月からのタスポ導入が九州のような動きを見せれば、回復のチャンスとなる。
		乗用車販売店（従業員）	・各家庭における車の維持費の負担が増加しているため、車の売上に繋がらない状況が今後も続く。
		観光型ホテル（経営者）	・観光需要は安定した社会条件下で成長するため、先行きの社会経済情勢が不安定だと、ツアー客の足並みが乱れる。洞爺湖サミットや北京オリンピックも必ずしも好条件ではない。宿泊客の消費単価の上昇もほぼ限界とみられる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・経済状況を反映しているようで、割安商品から先に売れている。販売量はあるが、売上が今一つの状況であり、今後についてはやや悪くなる。
		タクシー運転手	・建設関係に携わる客が、会社が大変なので今後は飲みにも行けないとの話をしていたので、タクシーを利用する回数も今後減ってくる。
		通信会社（企画担当）	・春商戦での新規契約数は前年度よりも良いが、キャンペーンの多発による企業体力の消耗が激しい。
		観光名所（役員）	・2月に引き続き3月も国内からの来客数がマイナスとなっている。洞爺湖サミットも交通規制等からプラス材料とは考えにくく、今後については厳しくなる。
		観光名所（職員）	・洞爺湖サミットや北京オリンピック等があることから、今年度前半の観光客は減少する。
悪くなる		百貨店（売場主任）	・懸念された物価上昇が至る所に現れ始めている。依然として、企業体力に回復がみられず、賃金が据え置き企業が大多数であること、社会保障制度の不透明感やガソリン税の暫定税率の問題など、政治不安が増していることなどから、今後についてはますます消費が低迷する。
		高級レストラン（経営者）	・3月は進学シーズン、就職シーズンであり、毎年のように景気が上向くはずだが、今年に限っては景気が落ち込んでいる。これは株式市場の低迷やガソリン税の問題等の政治的要素を含んだ問題が、イメージ的に景気を暗くしているためであり、今後についても悪くなる。
		タクシー運転手	・例年、春になるとタクシーの利用客が極端に少なくなる。今年は冬期間の利用客も前年から減っていたので、これから暖かくなってくれば、ますますタクシーの利用が少なくなってくる。
		設計事務所（所長）	・全体的に動きが悪いなか、建材の値上げが続いており、請負契約時と実行予算時の差が大きくなっている。工務店は請負損の状態であり、資金力のない工務店は淘汰される。このような状況が続けば、工事単価を上げざるを得ず、その結果、鈍い客足が更に鈍くなる。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（役員）	・原材料価格は引き続き高騰しているが、消費者や購入先が少しずつ理解を示しつつあることから、価格改定のピッチが上がってくる。
		家具製造業（経営者）	・洞爺湖サミットによる需要の拡大が見込まれる。
変わらない		食料品製造業（団体役員）	・現在の円高や政治の不安定感の増大により、景況感は落ち込み、消費者の節約度は更に強まることとなる。食料品製造業を取り巻く環境は厳しいまま変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（営業担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月から値上げされる商品において、店先での在庫不足が生じている。これをカバーするため荷動きが活発となるが、これは一過性の現象であり、長続きしない。</li> <li>・洞爺湖サミットの開催効果で周辺地域の経済活動は活発となるが、道内全体への波及効果は乏しい。食品をはじめとした諸物価の値上がりで、家計の防衛意識は強い。夏季賞与も抑制が予想され、個人消費は弱めの動きとなる。総じて景気は横ばいとなる。</li> </ul>
		金融業（企画担当）	
	やや悪くなる	輸送業（支店長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業経営の悪化、倒産の連鎖が当分続く。</li> </ul>
雇用 関連	悪くなる		
	良くなる		
	やや良くなる	学校〔大学〕（就職担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月までの採用経過が良かったことを踏まえると、4月以降の企業の採用意欲がおう盛になる。</li> </ul>
	変わらない	職業安定所（職員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設業の底冷えの影響からか新規求人数の伸び幅が小さく感じられ、今後についても変わらない。</li> </ul>
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点で、採用を見送る企業や採用見直し等の動きが多く、近々で回復するような状況にはない。</li> </ul>
		求人情報誌製作会社（編集者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築物の耐震強度偽装問題の後遺症、地元大手の住宅メーカーの倒産、原材料の高騰など、マイナス要因ばかりが目につき、好転する材料が思い当たらない。</li> </ul>
		職業安定所（職員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの業種で新規求人数が前年を下回っていることから、今後についてはやや悪くなる。</li> </ul>
悪くなる			

## 2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	スーパー（店長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガソリン値下げへの期待もあり、外出が増えるなど人の動きが出てくれば経済も活性化する。</li> </ul>
		コンビニ（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気温の上昇とともに景気が良くなる傾向は例年あるが、振り返ってみても、前年末まで続いていた状況の悪化は1月ごろに底を打ち、今からは客単価などに改善の兆しがみえている。</li> </ul>
		乗用車販売店（従業員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暫定税率が廃止になればガソリン価格が安くなることから、少しは生活が楽になってくる。</li> </ul>
		住関連専門店（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐久消費財の販売には時間が掛かり、購入予定のある客を見付けることが難しい面はあるが、今月は何人が客のめどが立ってきている。</li> </ul>
		その他専門店〔食品〕（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待ちに待った春の到来で人の交流も増えてくることから、明るさが増す期待をしている。自社では初の外食部門を立ち上げたため、全社売上の増加もある。</li> </ul>
		高級レストラン（支配人）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテルの宿泊でスポーツ関係などが伸びており、それに伴いレストラン需要も伸びる傾向になっている。また、チャペルの改装があり、ウェディングの需要にも期待できる。</li> </ul>
		通信会社（営業担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガソリン税の問題など気になることもあるが、周囲の様子は全体的に動きが活発になり、購買意欲が増してきている。</li> </ul>
	変わらない	商店街（代表者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬場は負担の大きかった暖房費が軽減されることや、暫定税率の廃止に伴うガソリン値下げなど消費が上向く材料があるにもかかわらず、客の消費マインドが高まりそうな気配は無い。</li> </ul>
		一般小売店〔茶〕（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲には、いつの間にか閉店している店も多い。ガソリン高の影響が大きいようである。旅行や高級ブランド品の購入などに関する意欲はみられても、それは市内の景気に反映されない。</li> </ul>
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の状況を見ると、雇用情勢もあまり芳しくないようである。物価上昇の影響が続くため、今月と同様に低調な状態が続く。</li> </ul>
		一般小売店〔カメラ〕（店長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルカメラの販売は伸びてはいるものの、大型店との競争になり利益率が低くなっており、前年以上の粗利は期待できない。写真関係はデジカメプリントの伸びは期待できるが、フィルムを含む写真全体では前年割れになる。</li> </ul>
		百貨店（営業担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これといったトレンドのけん引役が見当たらず、引き続き衣料品は「後回し」になる気配がある。</li> </ul>

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（経営者）	・競合先のリニューアルや郊外型商業施設のオープンなどの影響は3～4か月続くものとみられるため、今月と変わらない状況が続く。
		百貨店（経営者）	・原油高に伴う食料品の値上がりやガソリン高騰により、衣料品などへの支出抑制は継続していく。
		スーパー（店長）	・今後も商品の値上げによる影響は続く。また、中国産食品の買い控えで冷凍食品は前期比70%と大きく落ち込んでいるが、回復の見込みが立たない。
		スーパー（店長）	・食料品の値上げは4月以降も断続的に続くものとみられ、来客数には影響が無いまでも、客単価は今月同様に低調のまま大きく変わらない。
		スーパー（総務担当）	・4月中には食料品のほか公共料金も一部で値上がりするが、ガソリンの一時的な値下げもあり、現在の傾向は変わらずに続く。それ以降になれば、パート労働者の所得アップ、好調な製造業の賃上げ受給など、やや期待できる面もあるものの、総じて大きな変化を期待できるほどではない。
		コンビニ（エリア担当）	・道路特定財源の問題も先が分からず、公共事業が停滞すれば土木建設関係に従事している人の生活に影響が出るなど、不透明感はある。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこ自動販売機へのtaspo導入により5月以降は来客数の増加が見込まれるものの、弁当、おにぎりなどの主力商品に回復がみられておらず、全体としての改善は難しい。
		コンビニ（店長）	・一時的にせよガソリン価格が下がることが消費を刺激する可能性もあるが、これまでの流れからして景気回復を実感できるレベルには至らない。
		衣料品専門店（経営者）	・半年くらい前から商店街を離れていった客は、まだ戻ってきていない。この先も食料品などの値上げがあることから、生活防衛のため衣料品については買い控えが続き、現状と変わらず悪い状態のまま推移する。
		衣料品専門店（経営者）	・実需型の購買、つまり必要な時に必要な物だけを買う傾向が顕著になってきている。
		衣料品専門店（経営者）	・政局が混迷しており、景気上昇の兆しがみえない。原油高、原材料の高騰により物価が上昇して暮らしにくくなっており、特に地方では先がみえてこない。
		衣料品専門店（経営者）	・この時期にしては販売量も来客数も少ないことから、今後についても良くなるとはとても言えない。
		家電量販店（店長）	・世の中が不安定であり、客の買物はますます慎重になる。来月以降は、政治動向にもよるが、現在と変わらず低水準のまま推移する。
		乗用車販売店（経営者）	・新年度になれば税制問題である程度見通しが立ち、買い控えが消費に転じるものと期待しているものの、夏までは新商品に乏しく大きく改善するまでには至らない。
		乗用車販売店（経営者）	・4月にはモデルチェンジが1車種、5月には新車種の発表予定があり、大いに期待している。また、来客数も戻りつつある。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	・価格改定の影響で小売の現場も含め、流通全体がしばらくは落ち着かない状況が続くものの、実売の動向は大きく変わらない。2、3か月先は、連休などの行楽関連は期待できるものの、それ以外はほぼ横ばいと予想している。もっと先の本格的な夏場の消費を期待している。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・暫定税率問題の取り扱いによっては、地方負担分の税収不足で新年度の予算執行が事実上困難になり、公共事業の先送りが予想されるため、それに伴う石油製品の販売減少が懸念される。夏場まで景気の見通しが立たず、販売業界全体への影響が懸念される。
		一般レストラン（経営者）	・以前までは1、2か月先の予約も入っていたが、最近では直前、あるいは当日の予約が多くなっている。つまり、現時点では2、3か月先の見通しが立てられず、現在と変わらない状況が続くものとみている。
		一般レストラン（経営者）	・これまでがどん底のような状態であり、これ以上は悪くならない。景気が良くなって欲しいという希望は持っているが、状況を考えればそれも難しくそうである。
		一般レストラン（スタッフ）	・中国産冷凍ギョウザの影響のピークは過ぎて、今後は落ち着いてくることからこれ以上は悪くならない。
		スナック（経営者）	・今月は歓送迎会などの需要に期待していたがそれほどの盛り上がりが見えず、今後も大きな変化要因が無い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
やや悪くなる		観光型旅館（経営者）	・景気が良い地域、悪い地域のばらつきがみられる。3月までの結果を分析し、重点強化する地域を明確にしていく。
		都市型ホテル（スタッフ）	・総体的に販売量は変わらないと思うが、例年5月に集中していた各種団体、協会の総会が、法の改正により6月に移行する。原材料の高騰により各レストランの価格を値上げするが、客足への影響が心配である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・仕入価格の高騰や原油高など先行きに不透明感があり、景気の悪くなった団体の、ホテル利用が減っているのが目立つ状況からしても、この先に景気が好転する材料は無い。
		タクシー運転手	・タクシーの需要と供給のバランスが崩れている状態にあるが、それを改善しようという動きは全くみられない。したがって、現在のような状況は改善されることなく続く。
		通信会社（営業担当）	・今後も景気回復の要素は少ない。特に地方は厳しい状況が続く。
		遊園地（経営者）	・学校、団体の動きやイベントによる集客などに期待はしているものの、物価上昇が家計に与える影響に不安が残る。
		商店街（代表者）	・長年の経験からすれば、生活必需品の値上げがこの先の不況感を徐々に強めていき、買い控えにつながっていく。
		商店街（代表者）	・原材料の高騰がみられ、飲食店の中には値上げに踏み切らざるを得ないところもある。また、市内では駅前の商圈が充実してきたことから、危機感を募らせる声が多く聞こえ始めている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・今月発売したプライベートブランドの品も一段落するため、今月より売上は落ちる。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・米国経済が順調であった時ですら日本国内の消費は長期に渡り低迷していたのが現実であり、世界経済の方向が大転換したと言われている状況からすれば、今後は今以上に悪くなると考えるのが経営者としての順当な認識である。
		百貨店（売場主任）	・食料品を中心に生活必需品の値上げが相次ぎ、家計に大きな影響を与えるため、衣料品についてはますます買い控えられる。
		百貨店（販促担当）	・4月から食料品など台所を直撃する商品の値上げが見込まれているため、消費者の生活防衛の姿勢がみられるようになる。
		スーパー（経営者）	・相次いで原価が上昇している品目が多くなっており、値上げの影響が心配である。
		スーパー（経営者）	・円高や株安、ガソリン価格の高騰など外的要因がどこまで続くのか不透明である。また、小麦に象徴される食料品の値上げは、飼料代の高騰から畜肉にまでおよび始めている。このように客の消費マインドが冷え込む要因はあるが、上昇する要因は見当たらないため、しばらくは極めて厳しい対応を迫られる。
		スーパー（経営者）	・食料品の値上げは今後もまだまだ続く。また、ガソリンの暫定税率が一時的に廃止になっても、元に戻れば客の心理はむしろ今より悪化する。
		スーパー（店長）	・中国産の食品に不信感が高まり、割高な国産品を買わざるを得ないという状況のもと、小麦粉の再値上げが控えているほか、製紙会社も紙製品の6月からの値上げを表明している。消費者は「メモしてきた物以外は買わない」「買物の回数を減らす」など、生活防衛に苦心しているが、それでも追いつかない様子である。物価上昇はとどまることを知らないが給料は増えず、景気が良くなる要素は無い。
		スーパー（店長）	・商品の品質に関する客の不信感や買い控えは今後も続く。また、チラシ掲載の特売品の販売比率が高まり粗利が減少している状況にあるが、安い物を求めて買い回る傾向は強まっていく。
		衣料品専門店（店長）	・景気後退、物価上昇によりスーツは買い控えが予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・県内企業の賃上げ状況は低調であるとみられること、及び生活関連商品の値上げが続くことから、車が売れる状況ではなく保有期間がますます長期化する。また、新車の販売不振に合わせ中古車市場も低迷する。今後は低価格、低燃費のコンパクトカーが販売の中心となっていくものとみられるが、整備需要へのきめ細かな対応が求められる。
乗用車販売店（経営者）	・原油高の影響からはしばらく抜け出せない。今は各社とも販売台数の減少をサービス部門と周辺利益で賄っているようである。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・ 仕入れ先の業者は4月から値上げをしてくるが、客はお構い無しの状態である。高く売れない状態が今後も続けば、おのずと利益を生まない悪循環に陥っていく。
		都市型ホテル（経営者）	・ 4月は歓迎会のトップシーズンとなるが、現時点の予約状況は前年同期比で10%ほど減少している。単価については今後の交渉によるが上昇を期待できる状態ではなく、景気の動きは良くない方向である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ 原材料の値上がりを価格に転嫁できないため、今後は厳しい状況になる。
		テーマパーク（職員）	・ 原材料高騰により、菓子類の仕入原価や売価が上がる。
	悪くなる	商店街（代表者）	・ 3月決算の状態が悪ければ、4月以降は動きが無くなる傾向がある。また、政治も停滞している。
		一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	・ 前年は改正建築基準法が施行されたあたりから政策不況の様相を呈してきたが、暫定税率問題の混乱、年金、医療制度など社会保障における個人負担の引き上げなどで、個人消費を中心に景気は悪化する。
		スーパー（経営者）	・ 4月以降も商品の単価は上昇することから、客の買い控えが進む。したがって、今後の売上については悲観的な見方をしている。
		コンビニ（経営者）	・ 地域の人口減少が徐々に進んでおり、春休みに入っても帰省した学生などの顔ぶれは年々少なくなっている。4月には人口流出もあるため、状況は更に厳しくなる。
		衣料品専門店（店長）	・ 春物スーツ目当てのビジネスマンの来客はあるものの、価格に関しては非常にシビアである。バーゲンの販売企画を早めに展開していく気構えを持たなければ、小売は非常に苦しい局面を迎える。
		自動車備品販売店（経営者）	・ 新卒者目当ての中古新車キャンペーンなどは不発に終わっている。親の仕事も不安定であり、いつリストラにあうかもしれないなど、地域では不況色がかなり色濃くなっており、消費を思いとどまらせようとしている。
		住関連専門店（経営者）	・ 稼ぎ時の3月で消費が伸びていないことから、今後は閑散期に入ることもあり、景気は回復しない。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・ ガソリン以外に値下がりする商品も無く、良い見通しが持てない。この先どのように売上を確保していけばよいのか、頭が痛いところである。良い材料が1つも無いことが問題である。
		一般レストラン（経営者）	・ 4月以降は、魚、肉、野菜、及び酒類などすべての食材において仕入価格の値上げがある。景気自体が良くないところでの値上げであり、ダブルパンチとなって効いてくる。
		旅行代理店（従業員）	・ 4月以降も原油、石油製品の価格高騰が続くものとみられ、家計の負担となることから旅行関係にも影響する。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・ どの取引先も、収入減少、利益減少の見込みに基づき新年度の予算計画を立てており、修繕費などの費目は発生主義とされ、予算計上もされていない現状からすれば今後の景況回復は無い。当社においても固定費の大幅な削減に着手する予定である。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる		
	変わらない	農林水産業（従業者）	・ 前年の果樹農家の収入は例年の85～90%であり、本年の収入は7月以降になるため、それまでの間は農業資材なども買い控えが継続する。
		食料品製造業（経営者）	・ 牛タンの原料は需給バランスが悪く相場が高いままで張り付いているが、アメリカからの輸入規制が変わらない限りその状況は変わらない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・ 時期的にも売上が少なくなることに加え、客が発注量を抑えている様子に変わりは無く、売上はそれほど伸びない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・ 新規で一過性という仕事が多く、手間と時間が掛かる割に利益が少ないという構造が常態化している。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・ 原油価格も少々落ち着いてきたことに加え、円高や原材料高に対する企業の耐力は過去に比べてはるかに向上しているというムードもあり、これ以上の悪化は想定しにくい。
		広告代理店（経営者）	・ 新年度も得意先各社は経費削減を追求しており、状況は良くならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コピーサービス業（経営者）	・仙台市内は一見すると民間の動きが活発であるようだが、商売上は大きな変化は無く例月と変わらずに推移している。店頭での来客数は、通販や安売り店との競合もあり、減少傾向が今後も続く。
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・原材料価格の高騰に伴い商品の値上げを検討しているが、値上げによる消費の低迷も考えられるため、経営環境としては非常に厳しい。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・ガソリンや重油の高騰、原材料の値上げにより、取引先各社も収益が厳しくなっている。同業者の倒産もみられるようになっており、景気は悪くなっていく。
		土石製品製造販売（従業員）	・原油高騰のためセメント材料費にも大いに影響が出ており、取引先とは値上げ交渉の毎日である。エネルギーの高騰は景気を大きく変える。
		電気機械器具製造業（経営者）	・4月からは鋼材の値上げがあり、それ以外の原材料も値上げが相次いでいるが売価に転嫁できず、一部の受注を見合わせなければならぬ状況である。新年度第1四半期の受注量は前年比30%のダウンであり、原価改善も厳しいことから、利益の確保が非常に難しい状況になる。
		建設業（従業員）	・ガソリン税の暫定税率の期限切れにより、公共投資額が減少する。
		建設業（企画担当）	・一部で積極的であった不動産投資にも陰りが出ていることに加え、ガソリンの暫定税率問題で政治の空気が続いていることもあり、先々の不安が解消されないまま状況は改善しない。
		輸送業（経営者）	・荷主との運賃値上げ交渉次第であるが、これまでの交渉は難航しており経費だけが增加している。今後は従業員との賃金交渉も控えているため、状況はますます厳しくなる。
		通信業（営業担当）	・一部の業界では明るい話題もあるようだが、全体的には依然として上向きな雰囲気を感じられない。競合他社の攻勢もあり、投資回収の課題も抱えながら既存契約の継続に苦戦する状況が続く。
		広告代理店（経営者）	・大企業である得意先の企業が、これまで数年間は毎月続けていたテレビのスポットCMの出稿を来年度から取りやめるなど、大きなマイナス要素が出てきている。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・得意先でもある大手商社の出先機関が、商いのメリットが無いなどとして4月には撤退するなど、地域の経済は活発とは言えない。派手な商戦の後は広告も控えられ、また消費者のほうも財布のひもを固くするため、揺り戻しによる悪化が懸念される。
		経営コンサルタント	・円高、ガソリン価格の行方など不安要因が多すぎる。
		司法書士	・消費者金融などからの負債を破産手続により免れることができて、そもそも生活に困窮するいわゆる貧困層が相当数見受けられる。地方では就職難が継続しており、都会と地方の二極化に加えて、貧困の固定化が拡大するおそれもあり、景気に悪影響を及ぼす。
	悪くなる	一般機械器具製造業（経理担当）	・国内自動車販売の低迷、円高による輸出環境の悪化、原材料費の上昇など、経営環境を悪化させる要因が山積している。
		広告業協会（役員）	・家電製品、自家用自動車、不動産などは広告しても売れないことから、広告需要はますます縮小してしまう。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・小麦粉関係など値上がりしている商品の動きが無くなっている状況であるが、4月以降はみそ・しょう油、乳製品などの値上げ予定があり、それらが出そろうまで消費はしばらく落ち込むため、メーカー、販売店共に苦しい状況になる。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・取引先の住宅会社は、業績の悪化を見込んでいるところが多く、また暫定税率の問題など外的要因は影響が読みきれないこともあって、全体的には見通しは悪い。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・駅前や郊外に大型商業施設が相次いで開業する予定であり、その工事関係を含め求人が活発になれば少しでも景気は上向く。
		職業安定所（職員）	・今後の新規求人数に増加の動きがみられる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・全体をけん引する好調な業種が無く、全体的に湿っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・有効求人倍率は、0.02ポイント低下している。公共工事や住宅着工数の減少に伴い、建設業が18.7%低下していることが大きく寄与している。またコスト高騰を価格に転嫁できない製造業で12.7%低下している。一部、サービス業で上向いている業種もあるが、全体的には横ばいで推移する。
	やや悪くなる	人材派遣会社(社員)	・円高、原油高、原材料高が企業の収益を減少させ、人材採用投資を控えさせる。
		職業安定所(職員)	・事業主都合による離職者が増加してきている一方で、求人数は相変わらず減少傾向が続いており、有効求人倍率が徐々に低下してきている。
		職業安定所(職員)	・派遣と請負の求人減少傾向は今後も続く。そのため、有効求人倍率も伸び悩む。
		職業安定所(職員)	・原油高、物価上昇の影響から逃れることはできず、この先の新規求人の動きが好転する材料は無く、厳しい状況は続く。
	悪くなる	人材派遣会社(社員)	・派遣制度利用の見直し、派遣社員の絞込み、派遣社員の正社員化などの動きは、業界にとっては急ブレーキとなる。

### 3. 北関東(地域別調査機関:(財)日本経済研究所)

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ(経営者)	・近くの大学での人の入れ替わりや花見、ゴールデンウィーク、新茶などの対応をきめ細かく拾っていけばまだまだ数字は伸びる。今月は週3回くらいの割合で、ベースの上にどのくらい乗せられるかというチャレンジをしたところ、水曜日と金曜日に高い数字を示したので、引き続き挑戦していきたいと考えている。
	やや良くなる	観光型ホテル(営業担当)	・予約状況は悪くない。季節も良くなり、ガソリン値下げによるマイカーの動きに期待している。
		旅行代理店(支店長)	・2~3か月後は春の旅行シーズンに入るので今月よりは良くなる。また、北京オリンピックの商品も出てくるので、夏場に向けた販売も始まるということで期待している。
ゴルフ場(副支配人)		・このところ入場者の動きが極めて顕著に上昇しており、前年比でみても大幅に上回っている。ただし、単価が若干下回っているため、売上は伸びていない。全体的にはその先の引き合いも順調にきているので、向こう3か月後、そう落ちることなく推移するのではないかとみている。	
	その他レジャー施設 〔アミューズメント〕 (職員)	・インターネットカフェ、アミューズメントパークのほか、3月下旬からDVDのレンタルも始めた。相乗効果が期待できるので、客入りも増え、数字も上がっていくものと期待している。	
変わらない		百貨店(営業担当)	・物価の上昇など、依然良くなる材料が何もないので、購買については更に慎重になる。
		百貨店(販売促進担当)	・春物から初夏物、夏物への移行期に入るが、衣料品を中心にヒットが予想される商品も見当たらず、厳しい状況は依然として続く。
		百貨店(販売促進担当)	・高額品は売行きが鈍っており、無駄な物は買わないという消費者の傾向がはっきりしてきている。さらに、価格に対して敏感になり、通常価格よりも低めの商品が売行きを伸ばしそうな気がするが、百貨店の中ではそういった低価格の商品が少ないため、郊外型のショッピングセンターに客足が奪われている傾向にある。
		スーパー(統括)	・青果物等の生鮮食品の輸入規制が通常に戻れば、相場も安定し、売りやすくなる。問題は、輸入食品に対して消費者が以前のように戻らないと思われることである。
		コンビニ(店長)	・週末、特に日曜日の来客数がかなり減っている。この状態は悪くなることはあっても良くなることはない。
		衣料品専門店(店長)	・生活必需品の高騰による生活防衛のために客の財布のひもがますます固くなり、何か必要に迫るものがあったとしても、良い品ではなく、安価な物が洋服だんすの中にあるもので済ましてしまって、購買にはなかなかつながらない。
		乗用車販売店(従業員)	・総需要の減少にガソリン価格の高騰等の悪影響が重なり、販売台数、売上高共に減少傾向にある。事業規模を縮小し営業費の削減をしない限り生き残れなくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・同業者が倒産しているということもあり、とにかく良くなる要素、環境が全くない。既存の客はもちろん大事にして頑張っていくが、新規開拓の客がそんなに増えないということで、このまま悪い状態が続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・一時期より客の購入意欲が出てきたように思うが、相変わらず出来るだけ経費の掛からない車をという話が多く、まだまだ景気は良くならない。
		スナック（経営者）	・宴会の数はそれほど変化がない。フリー客はこれ以上落ちようのないところまで来ているので、当分はこのままなのではないかとみている。
		旅行代理店（副支店長）	・円高のため海外旅行が増加するように思われるが、燃油サーチャージが予想以上に高く、旅行に掛かる費用は上がっている状況から、伸び悩みが予想される。国内は日帰り旅行の需要が増えそうだが、長期の旅行については苦戦しそうだ。
		ゴルフ場（従業員）	・単価は引き続き低価格路線を継続していく。来客数はこのまま横ばいで変わらない。
		ゴルフ場（支配人）	・来場者は地元中小企業のオーナーが多く、現在燃料の高騰、原材料費の値上げ、公共事業が少ない等で地元産業の低迷を懸念する客が多い。ゴルフ場として健康産業を前面に営業していく。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・安売りが続く限り、会社も従業員も良くならない。汗したものが売上に反映されない。在庫量が減少し、売上也減少している。
やや悪くなる		商店街（代表者）	・昨年ショッピングセンターがオープンしたばかりなのに、さらに今夏シネコンを併設し、ホームセンターを核としたショッピングセンターがオープンする予定で、市場は明らかにオーバーストアとなっている。人口が減り続けるなか、一昨年には映画館もなかった市内に、いきなり16面ものスクリーンが増え、集客効率も悪い。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・車社会の現在、ガソリン問題はすべてに影響を及ぼす。ガソリン代が掛かるからといってその分を売価に上乗せもできず、商売も明るい兆しが見えてこない。ガソリンが下がったとしても他の物の値上げが発表されると客の意識がそちらへ向いてしまうので、家電業界にとっては厳しい。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・得意先の飲食店の売上状況がとても悪く、苦戦をしている。
		スーパー（統括）	・原材料の値上がりによるインフレは加速気味である。所得も増えないため、消費者の可処分所得は目減りし、生活防衛型の消費に大きくシフトしていくとみられる。
		高級レストラン（店長）	・県内最大手の建設会社が破たんし、関連会社の連鎖倒産が懸念されており、先行き不安が広がっている。
		都市型ホテル（経営者）	・円高、燃料費や小麦などの値上げが続き、企業の経費見直しがじかに影響する可能性がある。
		都市型ホテル（支配人）	・景気が悪いために出張客が出張を控えているように見受けられ、先の予約状況は芳しくない。これから予約が入ってくるかどうか不明な部分がある。
		美容室（経営者）	・1,000円床屋に女性客が増えている。約4分の1の料金でできるということで、客が移動しているのが現状である。若い女性をターゲットにしないと営業が難しくなるだろうと思っているが、当店は年齢層が幾分高めなので不安である。
		美容室（経営者）	・これから来客数は増えると思うが、生活防衛のためにカット客ばかりが増え、高単価のパーマ等は増えない状況である。
		住宅販売会社（従業員）	・競争激化に加え、建築資材価格の上昇が顕著で適正利潤が確保できない状況になってきている。
悪くなる		スーパー（販売促進担当）	・メーカーの値上げが今後も続く見込みの中、生活防衛の買いは一層顕著になる。また、近隣に2～3店舗、競合店の出店が予定されており、そうした中で利益を確保するために一層の人員削減が進行中で、非常に厳しい状況である。
		家電量販店（店長）	・オリンピック需要に期待しながらの営業中である。中国開催だが最近の政情不安報道が影響しているのか、盛り上がっていない。
		住関連専門店（店長）	・特に業者向けの建築資材が毎週値上げになっており、今後も更に値上げが続くことが分かっている。従って、業者の購買頻度は更に低下する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・月の後半にきて歓送迎会等の予約はあるものの、この先の宴会予約は極端に少ない。個人的なグループ客に期待するも、今のところ予約は少ない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・昨年の予約状況はまずまずだったが、今年に入ってから昨年3割ぐらいいか予約が入っていない。新規ホテルが4、5軒できるということで、5千円前後の特別料金が1か月から半年近く続くという最悪の状況にある。当社として一時的に料金を安くすることを考えないといけない時期に来ている。
		タクシー運転手	・日ごろのいろいろな物が値上がりし、この地区では5月にタクシー料金も値上げになるので、ますますタクシーを利用する客が少なくなる。
企業 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	輸送業（営業担当）	・今後、年度替わりや夏場に向け季節商材などの物量も増え、ある程度は確保はできそうである。燃料高についても、荷主の中には車両の確保が難しい遠方に対しては運賃転嫁に理解を示してくれ、運賃の値上げが決まった先もある。希望通りの値上げではないが、現状よりはコスト負担の削減にはなる方向性が出てきている。
	変わらない	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・資材の値上げ等で、受注量が増えるとは予想できない。同じではないかとみている。
		金属製品製造業（経営者）	・4月以降は原材料の高騰が効いてきて、相当厳しいという見込みだが、大手の取引先の工作機械部門では北米の引き合いも非常に多く、受注も減少していない。相手方から見ればドル安が幸いしているわけで、その分親工場も価格転嫁を検討している。それほど輸出も深刻ではないようである。当社も材料単価の一部で価格転嫁を認めてもらっている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・当分の間、建設機械の部品は多少増加する予定であるが、自動車関連は減少する。ただし、6月以降、自動車関連の新規部品受注が現実化しそうなので期待している。
		一般機械器具製造業（生産管理担当）	・米国向けミニ建機用の仕事大幅に落ち込むが、他の仕事の増産、新規案件の立上げ予定があり、落ち込みをカバーできると見込んでいる。
		経営コンサルタント	・原料、燃料の値上がり、資材等の調達環境の悪化によって企業の経営活動が不活発になる恐れがあり、他方、諸物価の上昇や高止まり傾向の中で、個人消費も大きな回復が期待できない。
	やや悪くなる	食料品製造業（営業統括）	・食品を始め、諸物価の値上げが次々と見込まれており、酒類のような嗜好品は買い控えの対象になりやすく、消費はかなり落ち込むものと考えられる。
		食料品製造業（製造担当）	・地元周辺の80%のスーパーや得意先は値上げを了承しているが、いまだに値を下げて何とか入り込んでくるような業者もあり、先行きにおいても非常に深刻な問題である。
		化学工業（経営者）	・向こう3か月の受注状況は例年の半分程度になっている。仕事の内容の変更をし、人が遊ばないように工夫している。あらゆる資材が値上がりし、製品原価が上がってきているので、企業努力だけでは吸収できなくなってきた。
窯業・土石製品製造業（経営者）		・受注見込みの予想が全く立たない上に、原材料の高騰で店頭商品の販売価格も値上げするしかないの、売上の減少が予想される。	
電気機械器具製造業（経営者）		・取引先の通信機器の新製品投入計画があるが、受注にどれだけ反映できるか不透明であり、当社受注に影を落としかねない状況である。	
電気機械器具製造業（営業担当）		・受注の見通しの悪さ、原油、鉄板、鋼材ほか原材料の値上がりへの懸念、急激な円高による企業への影響など、景気回復の要因がほとんどみられない。	
広告代理店（営業担当）		・広告を通じて取引をしている多くのクライアントが、材料費や輸送費の高騰で、すでに企業努力の限界を訴えている。特に、運送会社や飲食店の状況は深刻である。	
悪くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・4～6月に関しては従来の仕事は2～3割減の見込みだが、4～5年前からずっと試作などを付き合ってきた会社が今年の夏に新製品を発売するというので、その受注が成功したので、当社としては売上の倍となるが、既存の会社の売上はかなり減少する。	
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・原材料高の分、価格転嫁できれば良いが、逆にコストダウン要請が強まっていて、先行きは収益が全く出ない状況になるのではないかと心配している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者） 建設業（総務担当） 金融業（総務担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月以降宝飾品の販売が盛り上がる時期だが、昨年来の売上減が響き、2～3か月での回復は難しい。</li> <li>・当社取引の材料企業が、まったなしで値上げしてきている。燃料費の上昇と機械部品の値上がりで、現況価格では工場が赤字になってしまうとのことである。公共工事を受注している企業では、材料費や燃料費が大幅に値上がりしているのに、相変わらず低価格でしか仕事が確保出来ない状況であり、先行きも懸念される。</li> <li>・3月末までということでは値段を据置き、もしくは引き下げに応じてもらっていた業者は、4月以降値上げが確定しているため、支出は増加する。</li> </ul>
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	職業安定所（職員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原材料の高騰や円高などにより先の見通しがつかず、不安感が強まっている。経験者や技術者に対する求人意欲はあるものの、必要最低限の補充に留まっている感がある。</li> </ul>
		学校〔短期大学〕（就職担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2～3か月後は内々定が出るピークになりそうである。技術、専門系の職種は一段落し、事務職などの採用に移行する企業も出始める時期だが、メーカーを中心として技術系の採用枠が広がりを見せており、なかなか人材が確保できない企業は継続して技術、専門系を中心に採用活動をする可能性がある。</li> </ul>
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規求人数が4か月連続で前年同月を下回っている。特に飲食、福祉関係からのパート求人が減少している。</li> </ul>
職業安定所（職員）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要産業である製造業の求人は、引き続き前年同月に比べ減少している。</li> </ul>	
民間職業紹介機関（経営者）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の円高経験から、製造業を中心に一気に慎重な姿勢となり、マンパワーの不足分は、雇用調整が即時可能な派遣にシフトする動きが目立ち始めている。</li> </ul>	
	悪くなる		

#### 4. 南関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	スーパー（店長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗客数及び売上が伸びてきている。</li> </ul>
		旅行代理店（従業員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対前年受注率が160%と増えており、また、円高ドル安の影響による海外旅行の問い合わせ、申込が増えている。</li> </ul>
	やや良くなる	商店街（代表者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1～3月まで少し元気がなかったが、3月後半から少しにぎわいが出てきている。この先、イベントを多く仕込んでおり、アジアからの観光客の増加傾向が続いていることとうまくかみ合えば、少し上向く。</li> </ul>
		百貨店（販売促進担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型SC開店によるバス停の移設から1年がたち、4月から前年比勝負がスタートすることに備え、改装を行い、準備を整えた。3月もそれなりの来客、売上が見込めることから、4月以降も前年クリアが可能と見込んでいる。</li> </ul>
		乗用車販売店（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・客からもよく聞くように、暫定税率の問題が車の販売や利用にかなり影響してくるだろうが、一方で、5月に発表される新型車への期待が大きい。</li> </ul>
		乗用車販売店（販売担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売行きが好調さを保っており、毎週行イベントの来客数が増え、成約につながる件数も増えてきている。</li> </ul>
		旅行代理店（従業員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体旅行の受注件数が増えている。国内旅行は予約ベースで前年比130%となっている。</li> </ul>
		通信会社（管理担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新商品が好調に推移している。</li> </ul>
		通信会社（企画担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月の北京オリンピックと、それによるデジタルテレビ、ハイビジョン普及の好影響が出てくる。</li> </ul>
		通信会社（営業担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガソリン税の問題等、景気悪化要因はあるものの、放送業界としてはやはり北京オリンピックがあるので気分的には盛り上がるはずで、何かしらのキャンペーンにより客は増加する。</li> </ul>
観光名所（職員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の開発も一段落し、来客数は一定で安定している。一方、単価がこの2か月で若干下がっている点が気掛かりである。</li> </ul>		
	変わらない	商店街（代表者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景気がかなり減速傾向になっている。諸物価の値上がりにより、我々の商売においても仕入単価が少しずつ上昇してきており、売りづらい状況になってくることに加え、来客数が減ってきていることから、今後も状況が悪くなる。</li> </ul>

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・茶とのりを販売しているが、最近の傾向として、値段の安い商品ばかりがよく売れる。特売日を利用してお金をあまり使わず、高い商品の購買を控え、必要な物しか買わないため、売上が伸びない。
		一般小売店〔衣料・雑貨〕（経営者）	・これから行楽シーズンに入る時期だが、原材料高騰や消費に対する逆風が吹くなかでも上質の商品は売れており、個人客も企業同様に格差が目立つ。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・諸物価が安定するまではこのままの状態が続く。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・パソコンの普及によりゴム印鑑等は不必要になってきており、業種的に景気回復が厳しい。
		百貨店（売場主任）	・食料品の単価下落による低迷のほか、婦人服、宝飾アクセサリーなど高額品の動きが非常に鈍化している。
		百貨店（広報担当）	・百貨店の得意とするオケーションニーズは相変わらず好調で、ホワイトデー商戦はバレンタインデーをしのぐ盛り上がりとなった。4月に向けたキャンペーン、商戦にも関心が高まっている。
		百貨店（販売促進担当）	・株価などの動向が見えにくい地合いのため楽観できない。大型催事により来客数の増加を仕掛けていくため、売上拡大は見込めるものの、コスト増を補うほど爆発するかは依然として不安要素である。
		百貨店（販売管理担当）	・春物婦人服の動きは、非常に悪かった前年は上回っており、3か月後は、クリアランスのスタート時期がずれる要因を除けば、前年と同様に推移していくと予測されることから、全体的に販売数量や購買客数も前年並みに近づく。ただし、景気好転の外部環境はないため、予断を許さない状況である。
		百貨店（店舗政策担当）	・現状の来客数の動きからは、2～3か月先に景気が上向いてくるような力強さは感じられない。
		スーパー（店長）	・明るい材料は無いというのが現状である。店でも、客への提案や関連売場でのアピールなど、いろいろと工夫をしているが、なかなか商品を手にとってもらえず、買い物かごに入っているのは安い物だけという状況で、3か月先も今と変わらない。
		スーパー（店長）	・原油価格の高騰により、様々な分野での値上げが相次いでおり、特に経費面についても圧迫される箇所が増えてきている。
		スーパー（仕入担当）	・中国産食品の問題や、飼料、原料の高値が続き、まだまだ不安定な状態にある。
		コンビニ（エリア担当）	・競争店出店の影響がしばらく続くと見込まれる上、商品の値上げが順次行われることから、単価は上がるものの、販売数に影響が出る。
		コンビニ（商品開発担当）	・今後の経済状況が好転する好材料が見当たらないことから、消費者の出費が減少する可能性が高く、販売点数の改善や来客数の増加が期待しにくい。
		家電量販店（経営者）	・円高、株安等による景気の先行き不安からか、急速に消費を引き締める動きが出てきおり、特に耐久消費財は真っ先に影響が出ている。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備と販売をしている。整備は順調に入っているが、販売があまり芳しくなく、今年一杯は消費の盛り返しを期待できない。
		乗用車販売店（営業担当）	・来客数の減少に伴い成約率も落ちる。ただし、自動車取得税が5%から3%に変われば、買い控えが緩和する希望もある。
		その他専門店〔雑貨〕（従業員）	・伸び進むはずのフレッシュスタートの時期であるが、販売量があまり増えていない。
		都市型ホテル（経営者）	・4月以降、宿泊は比較的順調だが、今のところ婚礼、宴会予約が停滞気味である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・先の予約状況で、宴会場は前年並みの予約がある。宿泊もネットを利用した予約が大変活発で、前年比は若干弱含みであるものの、最近では直近になってからの予約が多くなっているため、ネットを上手に活用して集客を図れば前年並みになる。また、レストランの予約はこれからだが、昨年後半から今年までの客の流れからすると、ほぼ前年並みの来客数、売上が取れると判断している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ）	・各種イベントへの予約状況も堅調で、5月までは前年を上回る売上を確保できる見込みである。ただし、円高や米国の金融不安、物価上昇など先行き不安な報道が多く、客の買い控えを懸念している。
		旅行代理店（経営者）	・春先の仕事に関しては、問い合わせはあるが、契約まで成り立たないという現状である。
		通信会社（経営者）	・デジタルテレビが相変わらず売れており、家電店からのケーブルテレビ加入の紹介もコンスタントである。
		通信会社（営業担当）	・物価上昇の影響が今後も続くため、大幅な状況の改善は望めない。
		通信会社（総務担当）	・当初予測していたほど客からの解約申出が多くないことに加え、4月下旬、当エリアに大型ショッピングモールがオープンする予定であり、かなりのにぎわいが見込まれる。
		ゴルフ場（支配人）	・向こう3か月間の来場予約が前年同期並みである。
		住宅販売会社（従業員）	・建築確認取得手続で遅れていた案件が出始めてくる感触があるものの、諸物価の値上がり等により、受注促進は大変難しくなっていることから、あまり期待はできない。
	やや悪くなる	一般小売店〔鞆・袋物〕（従業員）	・原油高による単価の値上げ、中国製品の買い控えが非常に目立っている。ギフト需要については順調な推移で伸びているが、一般品については、生産国を気にして、大分買い控えが見られる。
		百貨店（営業担当）	・株価低下の影響による売上低迷の傾向が、美術、宝飾、時計等の高級雑貨以外に、紳士服、子ども服でも出始めており、景気が下降する可能性がある。
		百貨店（営業担当）	・円高、株安、原油高と消費を抑える要因が目白押しで、これによる値上げ商材も多いことから懸念される買い控えは今後も変わらず、景気の鈍化は避けられない。4月以降の気温状況が夏物需要の購買意欲に密接にかかわってくる。
		百貨店（副店長）	・客の購買の様子が、以前より慎重になっている。
		スーパー（統括）	・客の買い方を見ていると、買上点数や一回当たりの買上金額が非常に抑えられている状況で、単価や買上金額、点数が伸びないのが現状である。
		衣料品専門店（経営者）	・春の入学式、卒業式、結婚式等で必要に迫って来店する客は目立つが、余計な出費を控えているため、なかなか先々良くなる様子はない。
		衣料品専門店（経営者）	・業界の大きなヒットアイテムが少なく全体的に軽衣料志向のため、一点単価、客単価の減少が予想されるが、それを補う来客数の増加は難しく苦戦する。仕入れも量の設定が難しく、先を読みづらい春物商戦である。
		乗用車販売店（渉外担当）	・暫定税率の不確定要素が販売の混乱を生じさせ、一時的に買い控えが懸念される。燃料、物価高、株価などに安定の兆しがみえるまで、需要回復は期待薄とみている。客のニーズをしっかりとらえた販売が一層重要となる。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・値上げがまだまだ続くなか、日用品など価格に左右されやすいアイテムをたくさん扱っているため、利益額確保に今以上に厳しい対応を迫られそうである。また競合店の出店が決まっており、対策を取ってはいるものの確実に売上等が下がるため非常に厳しい。
		その他専門店〔眼鏡〕（店員）	・物価高の影響もあって先行き不安が拡大し、業界全体に悪影響を及ぼしている。また、低価格商品にシフトする状況が続いている。
		一般レストラン（経営者）	・近隣の中小ビルテナントの空室率やマンションの供給過多がバブル直後の状態に似ている。
		一般レストラン（店長）	・4月から諸物価が値上げされるなか、当店も値上げを考えており、当然、客は買い控えをして消費を抑えてくる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・結婚披露宴の件数が5～9月までかなり伸び悩んでいる状況である。
		旅行代理店（従業員）	・諸物価の値上がりや燃油チャージの高止まりなど、ますます消費に水を差す環境において、生活必需品ではない観光目的の海外旅行は特にその影響を受けやすい。
		タクシー運転手	・電車、バス等の公共機関を利用する客が増え、タクシー利用率の伸びが減っている。夜は終電、終バスまでに帰る客が増える傾向にある。
		通信会社（営業担当）	・収入は現状を維持しているが、物価が上昇すると考える客が多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	設計事務所（所長）	・今までと同じペースで仕事 came としても、建築基準法改正から申請の手間がかなり増えているのと、外注先の値上がり響いているため、落ち込んでくる。
		住宅販売会社（従業員）	・ゴールデンウィークまでは販売量はある程度維持できるが、住宅税制や政策、金利に良い材料がなく、他にもサブプライムローン問題やガソリンの値上げ、株価の下落等住宅購入意欲の抑制につながるが多い。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・とにかく来客数が少なく、来ても何をかうのか分からないという状況で、将来に期待できない。
		衣料品専門店（次長）	・物流コストが昨年よりも2～3割増加したため、価格に反映させざるを得なくなっている。この傾向は当分続く。
		乗用車販売店（販売担当）	・原油高騰、ドライバー不足、排ガス規制、設備投資など、必要経費が相当高騰しているため、トラック業界については燃料分についての割増し運賃の上乗せを目指しているものの、現実にはなかなか改善されず、ますます悪い状態に陥っている。販売会社の方も、新車販売だけでは当然経営できないため、その他バリューの方に力を入れている状況であることから、景気は減速傾向である。
		設計事務所（経営者）	・住宅地は、どんどん建物がなくなり、空家売り地になっている。商店街はシャッター通り化され、小さな店はどんどんつぶれ、中小企業がなくなっていく、明るい見通しは全くない。
住宅販売会社（従業員）	・在庫で抱えていた物件も売れ終わりに近づき、改正建築基準法の関係で、建物が完成している物件がまだない。土地分譲で幾ら売っていくことができるかが、今後2～3か月の勝負になる。		
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		電気機械器具製造業（経営者）	・当社独自の開発製品を大切に作り続け、今期は昨年と比べてかなり大きく伸びてきている。全体に占める割合はまだ小さいが、他の商品が苦戦しているなかでは光っている。
		その他製造業〔ゲーム〕（経営者）	・ゲーム機本体が携帯型、据置型共に依然として底堅い動きをしており、やや伸びる傾向である。
	変わらない	広告代理店（経営者）	・クライアントの定例受注の予算が増える見込みで、その需要期が6月になる。
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・入札見積合わせも2度、3度と実施し、低価格での落札になるなどシビアな対応を迫られる場合がある。新規の客を増やしても、カバーするには限界がある。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・個人需要は若干上がってきているが、企業関係からの発注が底打ちで、ならずと横ばいとなる。
		金属製品製造業（経営者）	・得意先の設備投資も活発になってきたため、新年度の仕事量は増えるが見込んでいるが、同時に材料もかなり値上がりしていることから、あまり利益にはならず、良くならない。
		金属製品製造業（経営者）	・取引先の多くの企業から来期の生産計画を減少させるとの話があり、原価の値上がり分の価格改定さえも厳しそうである。
		広告代理店（従業員）	・取引先の自動車販売会社の売行きが伸び悩み、広報等を控えめにしている。
	税理士	・昨年の方が、一昨年に比べ前年より所得が減少した事業者が多く、景気が上向きになる材料が見つからない。	
	やや悪くなる	繊維工業（従業員）	・もともと日本の繊維業界は不況下にあるなかで、世界の経済事情が現状のまま継続する以上、消費者の購買意欲は引き続き減退の一途をたどり、特にファッション関係はますます低迷する。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・住宅関連部品における受注量の回復に目途が立たない上、原油価格上昇による各メーカーからの材料値上げの要求が続き、厳しい状況である。
金属製品製造業（経営者）		・依然として続くエネルギー高と円高による輸出企業への影響が大きい。これまでの製造業の好調は輸出が好調であったことによるため、輸出が鈍ると内需だけでは製造業は成り立たなくなる。このほか、安い海外製品の輸入も考えられ、厳しい対応に追われる。	
一般機械器具製造業（経営者）		・今の受注先はほとんどが自動車メーカーで、コストダウン話がちらほら出てきているため、同じ量を受注したとしても悪くなる。	
建設業（営業担当）		・原油価格の上昇、円高、平均株価安に対する不安が一般企業、家庭にも及んでおり、見積打合せをしても工事着手を見送る場合がある。景気改善にはまだ時間が掛かる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（財務・経理担当）	・これからもっと値上げが増え、間接費用が増大する見込みである。
		輸送業（営業統括）	・最近の取引先の様子として、暫定税率の問題があり、4月以降、価格が値上げが戻される雰囲気もあり、客の身動きもとれず出荷量が落ち気味である。物量としては落ち込むのではないかと思う。
		金融業（従業員）	・ベンチャーキャピタル業界の業績が悪いことから、ベンチャー企業や中小企業の資金調達が難航しているため、ますます資金繰りが悪化するところが多くなる。また、ベンチャー企業や中小企業が積極的に使うことで市場の活性化につながっていたベンチャーキャピタルの投資資金が減少する。
		金融業（支店長）	・ガソリン価格の高騰が、各企業や個人にかなりの影響を与えており、経費がかさみ、そのために個人では消費を抑えるという傾向が出てきていることから、今後もまだまだ厳しい。
		金融業（審査担当）	・取引先企業ではコスト削減を10年間にわたり行ってきたが、最近の原材料等の値上がりはコスト削減の限界を超えており、価格への転嫁も進まず、先行きを不安視している。
		不動産業（総務担当）	・賃貸部門は特に懸念される材料が見当たらないが、マンション販売部門は建築費の高騰を今後の販売価格にある程度転嫁せねばならず、特に4～5千万を超える高額物件の売行きが心配である。
		経営コンサルタント	・中小企業の人材確保が難しくなってきたり、賃金の上げに踏み切る企業が増えているが、売上に対する人件費比率が限界ラインに近づいている。福祉介護の業界では、人件費増が原因で撤退する例もみられる。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・通信関連の設備投資について回復の兆しは見えず、しばらくはこのまま低迷が続く。カンフル剤となる規制緩和や新サービスの登場に期待する。
	悪くなる	プラスチック製品製造業（経営者）	・原油の値上げによって原材料、資材等値上がりしており、買い控えが当たり前になっているため、今後、景気は悪くなる。
		輸送業（総務担当）	・燃料単価が減税されても、それ以外の費用が値上がりし、人件費の抑制では社員の確保ができず、悪い方向に向かっていくのが実態である。運賃、作業賃の値上げが全くできない状況で、今後の見通しも非常に厳しい。
雇用 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		人材派遣会社（社員）	・新卒採用が一段落し、また徐々に派遣の需要が増える。
		人材派遣会社（支店長）	・企業側の経営効率化の動きのなか、業務集中化案件の見込みが2、3件あり、新たに人材を募集する予定があることから、一定の契約数を確保できる見通しである。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・年度末から新年度にかけて、人の入れ替わりが多くなる時期であり、求人広告会社への出稿量が増加する。しかし、以前は各月による売上差も大きかったが、最近では年度末や年末年始、またいわゆる2月、8月などでも、他の月との売上差は少なくなってきた。
	変わらない	学校〔専門学校〕（教務担当）	・来春卒業予定者の求人については思うように進まず、場合によっては日本人以外の採用を考えなければ、と、採用担当者が危機感をあらわにしている。
		人材派遣会社（営業担当）	・人材派遣の発注が頭打ちとなってきたり、この状態はしばらく続きそうである。
		人材派遣会社（支店長）	・受注にそれほど変化はないが、就業曜日等、企業の就業条件の希望と就業希望者のニーズがマッチできず、なかなか成約に結びつかないため、売上が伸びない。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数は2007年4月以降引き続き減少している。新規求人数は恒常的に人手不足である医療、福祉業で増加しているが、その他の業種は減少しており、業種間の格差が広がっている。今後も大きな変化はない。
		職業安定所（職員）	・最近人員整理を行う企業の情報がよく入ってくるので、今後もこの状態は変わらない。
		民間職業紹介機関（職員）	・採用者数の絞り込みは起きているものの、底堅い求人ニーズがあるため、来期上半期に関しては、需給バランスの関係からまだ大きな落ち込みはない。
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・中小企業の経営者たちは、国内の市場が非常に冷え込んでいることに加え、円高が数か月続けば国内外の状況が悪くなり、とても景気が良くなるとは思えないと言っている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	求人情報誌製作会社（営業担当）	・正社員志向の動きが強いものの、続く採用難と景況感から、採用に対して積極的に行う企業と控える企業の二分化の動きが始まってきている。
		求人情報誌製作会社（編集担当）	・今のところ、全体の求人数及び正社員募集の件数、職種の広範さに大きな変化はないが、物販や飲食関連で売上の減少を懸念する声が多い。先行き不安で消費控えが続くと、このところみられていた業務拡張の動きは停滞し、人の動きも鈍る。
		職業安定所（所長）	・食品を始めとする原材料の値上がり分の価格転嫁により、売上の落ち込みがみられることや、原油高騰による製造、輸送コストを取引先との契約に反映できない中小、下請企業での収益の落ち込みから、常用からパートへの切替えや退職者の欠員補充を見合わせるなどの動きが今後も続く。
		職業安定所（職員）	・在職中の求職者が増加しており、特に中高年齢層での増加が著しい。
		民間職業紹介機関（経営者）	・外資金融の求人はサブプライムローン問題の表面化以降ぱったりストップしている。金融機関の採用意欲が減退しており、勢いがなくなりつつある。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・企業訪問等で人事担当の話では、採用人数を昨年より減らす企業が多い。

### 5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・食品その他の値上がりを前に、販促をかけていくため、2、3か月先までは売上は増える。また、円高のため、値上げも多少緩和される。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・商店街の入り口に大型スーパーが出店して人通りが多くなるため、来客数が増える。
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・食の安全が話題になっているため、時流にあった商品群を充実させ、更に拡販していく。
		百貨店（売場主任）	・新入社員の客の来店が少しあったので、これから給料を貰い始めると、また来店する客が少しは増える。また、下見や注文のため来店する常連客もあるため、売上は伸びる。
		スーパー（総務担当）	・来客数の伸びはないが、客単価が4.9%上昇しているの で、今後は良くなる。
		都市型ホテル（営業担当）	・ガソリンの暫定税率が廃止され、ガソリン価格が下がるため、消費が進み良くなる雰囲気がある。
		旅行代理店（経営者）	・ガソリンの暫定税率が廃止され、企業や家庭の出費が減るため、一時的であっても上向きに転ずる。
	変わらない	住宅販売会社（従業員）	・今後資材価格が高騰するので、早めに住宅を取得したほうが良いという考え方が増えてくる。
		商店街（代表者）	・オリンピックを控えているが、増えている高齢客にはデジタル家電は難しいためか、薄型テレビを積極的に購入しようという雰囲気はあまりない。
		百貨店（売場主任）	・客はポイントカードのポイントが倍になる期間を狙って購入するなど、少しでも得になるよう生活防衛をしている様子が明らかである。このような傾向は、まだまだ続いていく。
		百貨店（販売担当）	・ファッションに目新しさがなく、低迷は約1年も続いている。従来と異なる製品の動きが見え始めてはいるが、良くなるのは秋以降になる。
		百貨店（販売担当）	・ボーナス商戦となるが、円高、株安、原油高の傾向が続けば消費が冷え込むのは確実である。貴金属の価格上昇の影響も出てくる。
		スーパー（店員）	・良くなる要素は見当たらず、今月同様に悪い状況が続く。
		スーパー（営業担当）	・今後は新入学、花見、行楽、ゴールデンウィークと行事が目白押しであるが、消費者物価の高騰は避けられず、消費は低迷する。
コンビニ（エリア担当）	・必需品以外の買い控えは、今後も継続していく。		
コンビニ（エリア担当）	・競争店が増えることはあっても、減る兆しはない。		
衣料品専門店（経営者）	・以前なら夏物は単価は低くてもそれなりに売れていたが、これからは必要な物しか買わない傾向が続く。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・3月中旬ごろより市場は縮小しており、車の販売は厳しくなっている。5月には新型車が投入されるが、それまではかなり厳しい販売状況になる。
		一般レストラン（スタッフ）	・今月は天候が良かったのと当店の値上げを抑えたために来客数が伸びたが、この先これ以上伸びるとは思えない。
		都市型ホテル（従業員）	・予約の件数は変わっていない。
		旅行代理店（経営者）	・諸物価が値上がり、海外旅行では燃油料が高騰しているため、5月以後も相変わらず悪くなっている。
		旅行代理店（経営者）	・ドル安、原油高などの影響が出始めて、自動車部品業界などが影響を受けるため、購買層は伸びない。
		タクシー運転手	・自動車産業、電機産業などでは給料のベースアップも出来たが、円高で深刻な状況になっているため、減益が予想される。食料品など物価も上昇が続くので、景気はやや悪くなる。
		テーマパーク（総務担当）	・来場者数は増加傾向であるが、ガス代や原材料価格の値上げに伴い、単価を上げた商品もあるため、今後もそれほど変わらない。
		ゴルフ場（経営者）	・予約数は前年を上回っているが、単価を下げているためとも思われる。燃料価格が上昇しており値上げしたいが、客を失うのが怖くて、なかなか踏み切れない。
		ゴルフ場（企画担当）	・予約状況を見ると、今の好調は2、3か月は続く。売上の好調さもしばらく維持できる。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・原材料費の高騰により、一部商品の値上げをせざるを得ない。競争相手も多く、売上に影響すると懸念している。
		商店街（代表者）	・4月1日以降の原材料価格を値上げするという通達が、当店にも来ている。対象は材料の80%ほどである。商品単価に転嫁しないとやっていけず、値上げを考えているため、販売量は減少する。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・食材等の上昇で、消費者の懐が更に厳しくなる。飲食店を中心に来客数が減少し、影響が出てくる。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・給料が上がるよりも諸物価の値上がりの方が大きいと、マイナス傾向になる。
		百貨店（企画担当）	・婦人服の販売不振は半年間続いており、天候やファッショントレンドというよりも、客の消費意欲の低下が原因と考えられる。この消費マインドの冷え込みがすぐに改善するような兆しはない。
		百貨店（企画担当）	・株安により、特に富裕層に心理的影響がみられ、高額品の動きはしばらく低迷が続く。また、昨年と大きく異なるようなファッショントレンドが出てきていないため、ファッション商材の動きも厳しさが続く。
		百貨店（外商担当）	・今月の様子を見ても家計の余裕を感じられず、買い控えがしばらく続く。
		百貨店（販売担当）	・卒業、入学や就職など大きな需要が見込まれた時期にかなり売上を落としているため、ゴールデンウィーク後の例年集客率が落ちる2、3か月後は、更に厳しくなる。
		スーパー（経営者）	・大型店の出店が控えており、やや悪くなる。
		スーパー（仕入担当）	・現在のビール、発泡酒等の値上げ前の駆け込み需要の反動が予想される。その他にも店頭売価の値上げが次から次へと発表されるため、消費者は各スーパーの安売りチラシを持って、その日その日で買い回ることが増える。
		スーパー（販売担当）	・近隣に競合店がオープンする。
		コンビニ（経営者）	・仕入価格の上昇は、最低でもまだ2、3か月は続き、その間は利益を見込めない。また、売価が上がったときに、客の購買力が落ちないか不安である。
		コンビニ（エリア担当）	・競合店が出店する予定があり、ますます厳しくなる。
		コンビニ（店長）	・食の安全など様々な問題により、何が売れるのか、何を求めているのか分かりづらい。円高や政治の不安定なども伴い、買い控えは一層高まっていく。
		家電量販店（店員）	・パソコンの単価が下落している。高単価商品の高性能CPU搭載機も値下がり幅が大きく、今後の売上は前年を割る。
		乗用車販売店（従業員）	・特別仕様車の投入があるため、限定的ながら効果はある。
		スナック（経営者）	・ボトルなどの仕入価格が値上がりする上に、客も様々な面でシビアになっていくため、ゴールデンウィーク明け以降の繁華街は特に厳しくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・夏ごろまでは、買い控え傾向が続く。
		観光型ホテル（経営者）	・原油価格の高騰に伴い、消費者は今後も出費を控える。2、3か月先の予約状況も、昼食、夕食の地元需要は、前年比90%ほどと、弱含みである。
		都市型ホテル（支配人）	・飲料類の値上げが、ワインやその他にも広がっている。また、客室清掃費などの値上げ依頼も軒並み届いている。ネットで宿泊価格を見ても、販売価格への転嫁が進まないどころか、単価は下がり気味である。
		旅行代理店（従業員）	・4月から生活必需品の値上がりラッシュを迎え、それに伴いレジャー費への支出は少なくなる。
		理美容室（経営者）	・諸物価が高騰してきており、必要なときにしか来店しない傾向は続く。
		住宅販売会社（企画担当）	・来客数が減少しており、商談件数も減少しているため、今後も徐々に悪くなっていく。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔室内装飾業〕（経営者）	・年度末以降の工事が無くなっている。
	悪くなる	商店街（代表者）	・様々な物が値上がりしている。この業界でも10～15%の値上げがあり、消費はいよいよ冷え込んでいく。
		コンビニ（商品開発担当）	・ガソリン価格が25円ほど値下げされても、その他の原材料価格の高騰に対する価格転嫁が出来ていないため、今後半年以上をかけて、段階的に値上げする見込みである。そのため、消費は悪化し、改善の見込みは少ない。
		一般レストラン（経営者）	・今月、来月、再来月と、どんどん悪くなる。近所の同業者でも同じ様子で、本当に不安である。
		一般レストラン（経営者）	・4月以降の諸物価の値上がりによる影響が出てくる。
		観光名所（案内係）	・4月以降はとにかく値上げが多いが、収入が増えるわけではないので、景気は悪くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・供給過多となっているため、先行きは悪くなる。
企業動向関連	良くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・住宅着工件数に回復の兆しが見え始めており、窯業界にとっては刺激となる。
	やや良くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・昨年開始した新しい広告媒体が安定しており、営業利益が増え始めている。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・受注量は増加見込みである。
	変わらない	輸送用機械器具製造業（統括）	・主要取引先からの受注が順調に増加しつつあり、今後も引き続き増加の見込みである。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・受注量、販売量共に、現在の水準で推移する。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・原材料や燃料費は交渉する余地もなく上昇しているが、製品価格への転嫁は全くといっていいほどできていない。同業他社も同じ状況であり、同業他社が値上げ要請すれば、見直しが行われる可能性がある。
		電気機械器具製造業（経営者）	・新製品の販売状況は、今後も現在と変わらない。
		輸送業（エリア担当）	・新入社員、新入生の動きに合わせて、例年3月末は引越が増加するが、今年はそれほど多くない。企業活動が活発でない現れであり、この動きはしばらく続く。
		金融業（企画担当）	・企業の売上は減少していないため、当面は現状の景気が続く。
		広告代理店（制作担当）	・新企画などに対してなかなか良い返事がなく、今後も平行線をたどる。
	やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）	・原材料価格の高騰に対して、価格転嫁が出来る可能性が出てきている。しかし、消費者に買い控え傾向があり、全体としてはやや悪くなる。
		紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・取引先からの数か月先の受注量を予測すると、減少傾向となる。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・原材料の価格値上げは、どうにも出来ない。
電気機械器具製造業（経営者）		・これまでカー・エレクトロニクス関係が全体をけん引してきたが、やや陰りがうかがえる。	
電気機械器具製造業（経営者）		・2割強の販売価格値上げを予定しているが、売上が落ち込むのではないかと懸念がある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・現状は輸出に頼っているが、サブプライムローン問題でアメリカの景気が低迷していることに加えて、円高もあって、輸出は悪くなっている。その一方で、国内販売も前年比でマイナスが続いており、全体の売上は減少する。
		輸送業（従業員）	・物流業界は原油高騰により燃料価格が高止まりしており、厳しい経営環境が続く。
		輸送業（エリア担当）	・プラント関係の貨物輸送が残っており、現在忙しいが、主要顧客先の受注が減少してきているとの情報がある。
		輸送業（エリア担当）	・円安、石油高騰の影響によって、輸出入を控える傾向がさらに強くなる。関西空港、成田空港の物流業者との競争が厳しくなっており、中部国際空港での物流量はさらに減少していく。
		通信会社（法人営業担当）	・アメリカ景気の悪化が、影響してくる。また、企業の業績は良くても、社員への還元がなされていないため、財布のひもも固くなる。
		広告代理店・新聞販売店〔広告〕 公認会計士	・4月以降の受注量が減少してきている。  ・原材料の高騰及び金融機関の融資姿勢に、改善される見通しがない。大企業と下請との取引姿勢も、一層厳しくなる。
	悪くなる	化学工業（企画担当）	・これまでは輸出に依存して緩やかな景気回復が認められてきたが、急激な円高による影響は、企業努力の域を超えて、利益減少に拍車がかかる。商品価格への転嫁や設備投資の抑制にもつながり、景気は悪化する。
		鉄鋼業（経営者）	・原材料である鋼材価格の大幅な上昇が見込まれるため、元請企業に対して値上げ交渉を進めているところであるが、今後の事業収支は圧迫される。新規の設備投資なども、少なくとも4月から6月は様子見で停滞する。
		金属製品製造業（経営者）	・引き合い件数が減少している。
		建設業（経営者）	・建設業は更に競争が激化する。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・法人関係の予約状況が良く、求人数も増加する予想である。
	変わらない	人材派遣会社（経営企画）	・顧客からの派遣需要は、今後も高止まりが続く。しかし採用環境の厳しさも変わらないため、全般的には現状と同じである。
		人材派遣会社（経営者）	・技術者の人材不足は変わらない。派遣できる体制になっていない。
		人材派遣会社（社員）	・求人案件は堅調であるが、それに見合う人材確保が困難であり、採用は進まない。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・自動車を中心とする製造業では、依然として生産は好調で人手不足が続いている。しかし中小企業では、余剰感が出てきているため、横ばいとなる。
		職業安定所（職員）	・受注や生産量の増加が見込まれ、人材需要はあるものの、原材料費の高騰によって企業収益や賃金の伸びは期待出来ない。
		職業安定所（職員）	・新規求人の状況は、運輸業、飲食店や宿泊業では増加もみられるが、ほとんどの業種では減少している。求人意欲も低調であり、今後もこの状況が継続する。
		職業安定所（職員）	・不透明感があり、採用者数や求人数を控える状況が続く。
		職業安定所（管理担当）	・新規求人、新規求職者が共に減少しているものの、今後も大きな変化はない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・需要が安定している長期のオーダーに、減少傾向が現れている。特に増員対応の依頼は、今後減少する。
		人材派遣会社（営業担当）	・現在は一服感があるものの、今後の需要は高水準になることが予想される。しかし、直接雇用への転換が進むため、人材確保が困難になる。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	・景況の見通しに不透明感が増しており、新年度以降は採用の手控えが生じる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる		

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	通信会社（営業担当）	・携帯電話業界全体で家族通話が24時間無料になり、新しい需要が喚起される。
	やや良くなる	家電量販店（店長）	・北京オリンピックの開催を控え、AV商品の需要が増大する。洞爺湖サミットによる省エネ意識の高まりから、省エネ商品の販売量増加も見込める。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・花粉症・風邪・紫外線対策商品、防虫剤などの季節商材が例年以上の動きを見せ始めている。
		観光型旅館（スタッフ）	・4月以降の予約状況は、5月を除いて前年を上回っている。
	変わらない	一般小売店〔精肉〕（店長）	・購買動機が高まる時季であるが、来客数や客の様子に変化が見られない。
		百貨店（営業担当）	・来客数に占める買上率が伸び悩んでいる上、複数商品の買上セット率も増えず、春物のコートやワンピースも1点だけの購入が目立っている。やがて、セールが近づくと、現在の買い控え状態が更に進む。
		スーパー（店長）	・4月から小麦粉関連商品や乳製品の値上げが予想され、これまでの値上げに慣れてきた消費者に追い打ちとなる。客の買物動向に若干の懸念はあるものの、影響は限定的である。
		スーパー（店長）	・円高・ドル安が多少気になるが、当社グループは国内産、地産地消を中心として販売しているため、影響はほとんどない。ただ、重油・ガソリン等の価格動向には目が離せない。
		コンビニ（経営者）	・来客数は横ばいを維持できるが、客単価の低下が続く。
		乗用車販売店（総務担当）	・5月には大型ワゴン車のモデルチェンジが控えているが、排気量の大きい車種の販売が伸び悩んでおり、大きな期待は持てない。総販売台数でも大幅な伸びにはならない。
		乗用車販売店（経理担当）	・4月以降、多くの生活必需品の値上がりが見込まれ、消費は冷える。
		都市型ホテル（スタッフ）	・レストラン利用客の減少が続いており、回復の兆しが見えてこない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況は今一つである。
		旅行代理店（従業員）	・若年層の旅行離れや燃油高騰などのマイナス要因と、円高のプラス要因が相殺される。ガソリンの暫定税率の期限切れは4、5月のマイカー利用旅行に寄与するが、逆に航空機利用などの高単価商品の販売には逆風になるおそれがある。
		タクシー運転手	・客の節約志向が強く、夜の歓楽街へ足を運ぶ回数も減少傾向にある。
		タクシー運転手	・昨年の暮れに運賃を値上げしたが、売上に反映されていない。
		通信会社（役員）	・今後良くなる材料に乏しいが、ケーブルテレビ業界を取り巻く区域外再送信問題の解決に向け、総務省の動きに進展が見られることがやや明るい材料である。
	その他レジャー施設（職員）	・来客数、客単価は一時的に落ち込んだが、ここ2、3か月は安定している。しかし、今後は上向きの要素が見いだせず、依然として厳しい状況が続く。	
	住宅販売会社（従業員）	・営業努力で見込み先名簿を発掘中であるが、住宅展示会での名簿からの取得は減少傾向にある。	
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・消費者の収入は変わらないが、原油高の影響から物価上昇ムードが広がるため、消費者の買い控えが進む。
一般小売店〔鮮魚〕（従業員）		・冷凍物など原材料価格が高騰しているが、競争相手との兼ね合いがあつて価格上昇が厳しい。	
一般小売店〔事務用品〕（営業担当）		・年度末需要が新年度につながるのが例年のパターンであるが、今年は原油高騰、文具値上げなどのマイナス要因があるため、一層厳しくなる。	
百貨店（営業担当）		・3月に物価上昇前の駆け込み需要があつた反動から、今後の売上は伸び悩む。ファッションではサンダル、帽子、Tシャツなど初夏から夏への商品に期待したいが、メーカーが生産量を抑制しているため品薄状態となり、売上に期待が持てない。	
百貨店（営業担当）		・重点顧客層の高齢化に加え、物価上昇の影響により、客単価が低下する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場担当）	・客の買物態度はますます厳しく、ギフトの単価も低下傾向にある。
		スーパー（店長）	・小麦粉を始めとする各商品の値上げや先行きに対する不透明感から、消費者の生活防衛意識がますます強くなり、消費を抑える傾向は今後も続く。
		スーパー（営業担当）	・客はこれまでの値上げに慣れてきたため、今後の影響は限定的である。ただ、不必要な物は買わないという態度は変わらない。
		コンビニ（経営者）	・今後、更なる値上げが予想されるため、客は価格に敏感になっており、価格競争力の強い店に流れる心配がある。
		コンビニ（経営者）	・業界最大手のチェーンが当地への進出を発表し、ますます競争が激化する。夏前にはオリンピック関連グッズの売上に期待しているが、かなり厳しい。
		衣料品専門店（経営者）	・女性客から「毎日食べるパンやドーナツを始め、値上げ商品がめじる押しで大変だ」という声が聞かれ、婦人服の購入予算が削られる。
		一般レストラン（スタッフ）	・中国食材の問題が発生したため、国内の食材が手に入りにくくなり、高騰している。海外産の香辛料等も生産農家が安定的な収入が得られる農作物にシフトしたため、高騰が続いている。また、トウモロコシもエコエネルギーに使われているため、畜産用のエサ不足から牛・豚肉などの値上げも予定されている。来客数や売上が変わらなくても、原材料、光熱費の高騰等で利益確保が難しくなる。
		通信会社（営業担当）	・夏前に新機種の発売が予定されているため、買い控えが発生する。
		住宅販売会社（従業員）	・急激な円高や株安に加え、租税特別措置法の改正も不透明な状況にあり、良くて横ばいで推移する。また、客からは単価引下げの要求が強く、利幅が悪化する。
		住宅販売会社（従業員）	・建築資材の高騰で住宅価格も上がり、客の動きは鈍くなる。
悪くなる		百貨店（売場主任）	・株価低迷、原油高騰、円高など、地方にとってプラス要素が見当たらない。特に40代のサラリーマン家庭の可処分所得が上昇しないことが問題である。
		スナック（経営者）	・経営者の客からは「今年のボーナスは減額せざるを得ない」「建設関連の倒産がますます増える」などの厳しい発言が多く聞かれる。
		テーマパーク（職員）	・予約客数、客単価共に前年に比べ弱含みの状態であり、全体としては1割近くの減収が予想される。
		パチンコ店（店員）	・遊技機代金の支払いサイトが短くなっており、これからの資金繰りが大変である。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	繊維工業（経営者）	・原料、燃料のコストアップに加え、円高・株安により、国内、輸出市場共に混乱しており、悪い状態が当分続く。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・為替や鋼材価格の変動などの影響が大きく、良くなる要素が少ない。
		輸送業（配車担当）	・4月から軽油価格が下がるため、見通しは一時的に若干改善される。
		通信業（営業担当）	・事業所用の電話システムが、最近では携帯電話と融合できており、IP電話によるコスト削減にもつながるため、新たな需要が今後発生する。
		司法書士	・商業登記関係では、個人事業から法人成りの会社設立はあるが、創業の話は聞かれない。不動産登記関係では、新たな事業の融資は一部の企業に偏っている。
	やや悪くなる	一般機械器具製造業（総務担当）	・引き合いはあっても、正式受注に時間が掛かる。客も仕事の確保が難しく、設備投資に踏み込めない状況である。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・円高の影響から競争力が低下しており、特に輸出向けの電子部品は当面、苦戦が続く。
		精密機械器具製造業（経営者）	・取引先の受注動向にバラツキが見られるなかで、2、3か月先までの眼鏡の生産量は現状に比べ若干減少する。
輸送業（配車担当）		・4月から軽油の値下がりが見込まれ、輸送コストが一時的に減少するが、後日、再値上げの可能性があるため、不安である。	
税理士（所長）		・諸物価の上昇が予想されるなかで、給与所得者の収入が伸び悩んでいる。取引先の中小企業経営者の多くが給与のアップは難しいと話しており、個人消費の停滞が心配である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	新聞販売店〔広告〕 (従業員)	・新規出店もなく、折込業界をリードしていく業種が見当たらない。
		食料品製造業(企画担当)	・原料を始め、燃料費、包装資材費などの値上がりが続き、収益の悪化が顕在化してくる。この対応策として値上げが実施されれば、個人消費の悪化が加速する。
		建設業(経営者)	・道路特定財源問題が地方自治体の公共事業予算の執行を遅らせ、少ない発注工事に対してのダンピング入札が更に激しくなる。これまで辛うじて持ちこたえてきた建設業者の受注難による倒産が増加する。
		建設業(総務担当)	・工事原材料の価格が更に上昇する見込みである。また受注競争の激化に加え、低採算での受注業者も見られ、受注環境はますます悪化する。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	求人情報誌製作会社 (編集者)	・大きな採用計画などの情報が聞かれない。
		職業安定所(職員)	・新規求人数は増減を繰り返しているが、情報通信業、運輸業での減少幅が大きくなっている。運輸業では原油高による企業収益の減少が影響していると思われる。
		民間職業紹介機関(経営者)	・企業では原料高などの厳しい状況が続いており、人の採用も厳しい。
	やや悪くなる	職業安定所(職員)	・事業自体の廃止にまでは至らないが、採算の取れない部署の廃止・統合予定の話がよく聞かれる。
悪くなる	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・原油高など基本コストの増加が長期化していくにつれ、影響の大きい業種では人件費まで切り詰めざるを得ない。求人広告に明るさは見えない。	

#### 7. 近畿(地域別調査機関:りそな総合研究所(株))

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	百貨店(外商担当)	・菓子博覧会が4月中旬から開催されるため、来客数が増加に向かう。
		コンビニ(マネージャー)	・ゴールデンウィーク明けに近隣で大きな事業所が開業するため、その事業所の社員による来店が増加する。
		家電量販店(経営者)	・オリンピックの開催を控え、デジタル家電の需要がより一層増える。
		家電量販店(管理担当)	・決して楽観できる状況ではないが、やり方によっては業績を伸ばせる手ごたえもある。
		乗用車販売店(経営者)	・車検の依頼や新車の販売が好調に推移している。
		都市型ホテル(スタッフ)	・婚礼受注、宿泊受注共に前年を上回っている。今後は宴会や会議の受注が課題となる。
		その他レジャー施設 〔球場〕(経理担当)	・プロ野球が開幕するほか、人気アイドルグループや人気ロックグループのコンサートがあるため、若者を中心に来場者が増える。
		住宅販売会社(経営者)	・住宅地価は緩やかな下落が続く一方、客の数自体は増える傾向にあるため、売買件数は増えていく。
	変わらない	一般小売店〔時計〕 (経営者)	・4月から様々な商品の値上げが決まっているため、生活に密着していない物にはなかなかお金が回ってこない。さらに、客が価格の安い商品へ流れる傾向が強まっていることから、しばらくは厳しい状況が続く。
		一般小売店〔コーヒー〕(営業担当)	・生活必需品などの価格上昇により、取引先の飲食店に廃業するケースが増えている。客足が遠のいたという理由ではなく、これ以上客に負担を強いるのはつらいといった声が多いなど、個人経営者にしわ寄せが及んでいる。
		百貨店(売場主任)	・上向きの材料はあるものの、原材料価格の値上げといった不安定要素は多いため、予断は許されない。
		百貨店(売場主任)	・ユーロ高による輸入商材の値上げや、素材価格の高騰のほか、株価の低迷などにより、高額品の動きはしばらく低迷が続く。
		百貨店(売場主任)	・株価の低迷など消費の伸びる要素が見当たらないほか、衣料品はヒットアイテムに欠ける状況にあるため、大きな変化がなければ売上増は難しい。
	百貨店(営業担当)	・今年に入ってから高級時計やブランド品の引き合いが減少しており、今後春から夏にかけて増える気配もない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（店長）	・ 今月は天候にも恵まれ、ファッション関係を中心に販売量、売上共にまずまずであったが、来客数は前年の水準に届かない状態であったため、先行きも大きく上向くことはない。
		スーパー（経営者）	・ 物価の上昇により、客の間で買い控えが起こっているほか、買物が慎重になっている。味が良くても高額な物には手が伸びなくなっているため、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・ 小麦粉やラーメン、油などの値上げラッシュに伴い、客の間では生活防衛の傾向が強まっている。その結果、プライベートブランド商品の売行きが非常に良くなっており、販売量は以前に比べて2～3割増加している。
		スーパー（経理担当）	・ ガソリン価格高騰の影響で、郊外型店舗の客が小商圏型のスーパーに流れ始めているが、今後の値下げ動向によってその流れにも影響が出る。
		スーパー（管理担当）	・ 値上げ報道などにより、客単価が低下している。その一方で、客は新商品に対して興味を示しており、特に健康関連の商品は今後売上が伸びる。
		コンビニ（店長）	・ 4月に入って新入生や新入社員が増えるものの、やはり地下鉄延伸によって当駅で降りる人が減少する。
		乗用車販売店（営業担当）	・ ガソリンの暫定税率の期限切れは自動車販売に追い風となるものの、受注に直接結びつくような動きはみられない。
		スナック（経営者）	・ 客との会話もお金の話ばかりであり、ゆとりや豊かさが感じられない。
		その他飲食〔コーヒーショップ〕（店長）	・ ガソリンの暫定税率の期限切れに伴い、燃料価格は低下するものの、全体的な消費マインドが回復するまでには至らない。
		観光型ホテル（経営者）	・ 旅行需要は好調であるものの、低価格のプランを求める客が圧倒的に多い。また、人気週末に集中する傾向が以前よりも強くなっているため、全体的な販売量については非常に厳しい状況が続く。
		都市型ホテル（マネージャー）	・ 宿泊部門では、好調に推移している海外旅行客が円高の影響を受ける可能性もあり、先行きは非常に不透明である。一方、食品などの値上げに伴って個人客の動きが鈍化するほか、法人客の宴会需要も厳しい状況が続く。
		都市型ホテル（役員）	・ 3か月先も低調な推移となるが、レストラン部門に限っては前年に工事で休業した反動もあって、大きく伸びる。
		旅行代理店（経営者）	・ 円高ドル安はドル通貨圏への旅行には好材料となるが、燃油サーチャージの上昇や、株価の低下による悪影響をカバーするには至らない。急激に悪化することはないものの、大きなプラス要素もないことから、もたついた状態が続く。
		旅行代理店（広報担当）	・ 海外旅行に関しては、原油高や円高など好材料がない。ただし、今年のゴールデンウィークは4連休となっているため、間際になって需要が伸びてくる。
		タクシー会社（経営者）	・ 個々のライフスタイルが変わってきており、繁華街でも電車をなるべく利用して帰るなど、タクシーを利用して遊びに行く習慣はなくなってきている。
		通信会社（企画担当）	・ 原油高やサブプライムローン問題、円高などの影響は懸念されるものの、一時期に比べると消費マインドは悪くない。
		美容室（経営者）	・ 来店サイクルは長くなっても短くなることはないため、今後も来客数は横ばいで推移する。
		その他サービス〔生命保険〕（営業担当）	・ 株価の下落や原油高などで全体に停滞感があるため、生命保険への新規加入を検討するケースが減少している。
		住宅販売会社（経営者）	・ 例年3、4月は異動シーズンであるため、不動産の動きも増える傾向にあるが、今期はその数が若干少ない。
		住宅販売会社（総務担当）	・ 鋼材などの価格が上昇するなかで、土地価格は上昇が止まっていることから、現状維持が精一杯である。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・ 金融機関の融資姿勢が変われば状況は良くなるほか、不動産価格の調整が終われば、取引件数も増加に向かう。
	やや悪くなる	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・ 4、5月の値上がりを控え、主婦層の間では警戒感が高まっている。過去4か月は客単価が低下する一方、来客数は前年並みを維持してきたが、夏場にかけての来客数の減少が一番の懸念材料である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔精肉〕 (管理担当)	・春休みからゴールデンウィークにかけて消費が活発になるが、売れ筋商品に変化がみられるなど、利益を確保しにくい状況となっている。中国産冷凍食品の問題で国内産が見直されているが、需要と供給のバランスを崩している商品もあるなど、決して良い状況ではない。
		百貨店(売場担当)	・夏物商戦においても、消費を刺激するような大きなトレンドが見当たらないため、価格競争やセールの前倒しによって価格が低下することになる。
		百貨店(サービス担当)	・今月末、大阪府南部に映画館を含む大型の複合商業施設がオープンするため、来客数や売上に影響が出る。
		百貨店(商品担当)	・様々な商品の値上げが報じられており、消費マインドが更に冷え込んでいる。店頭でも不要な物は買わない人が増えている。
		スーパー(開発担当)	・4月からの小麦製品の値上げで食品は軒並み値上がりする一方、賃金は抑えられたままであるため、これから更に買い控えが増える。
		コンビニ(店長)	・競合店による影響や、商品価格の値上げもあり、来客数が減少している。
		衣料品専門店(販売担当)	・4月から原材料価格が更に上昇するため、アパレルにもその影響が出てくる。
		乗用車販売店(経営者)	・今まで売れていた高額品の動きが鈍くなっているほか、不動産が動かなくなったことから、先行きの見通しは厳しい。
		都市型ホテル(スタッフ)	・来客数の減少が止まらないなど、好調な宿泊に支えられていた環境に陰りが出始めており、売上にマイナスの見込みが強まっている。法人客の間にも、宴会利用の減少や会議施設を安価な公共施設に変えるところが出始めている。
		通信会社(経営者)	・客から支払われる使用料が減少傾向にあることから、携帯電話各社が代理店に対する手数料を絞ってきている。
		観光名所(経理担当)	・近隣施設とのタイアップやイベントに力を入れるものの、今の状況を見ると来場者数は減少傾向となる。
		その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕(企画担当)	・行楽市場に大きな影響を与えるガソリン価格の動向は不透明であるが、食品など一連の値上げが市場にマイナスの影響を与える。
		美容室(店長)	・セット販売を行っている化粧品が、原料コスト上昇の影響で200円アップするため、その影響が出てくる。
		住宅販売会社(従業員)	・今後は、転売目的で購入した土地の売出しが一段と増加する一方、買手は激減している。
その他住宅〔展示場〕 (従業員)	・今のタイミングでは不確定要素が多く、家の購入や建築を行いにくい。		
悪くなる		商店街(代表者)	・値上げ商品が多くなっているほか、ガソリンの暫定税率問題による混乱が続くことから、今後も厳しい状況が続く。
		一般小売店〔雑貨〕 (店長)	・今後も喫煙人口の減少は続くため、売上の減少傾向は変わらない。さらに7月からはtaspoが導入されるため、売上減少が更に加速する。
		コンビニ(店長)	・4月以降、更に値上げする商品も多いため、家庭では具体的な支出の見直しが始まる。それに伴い、必要な物を必要な量しか買わない傾向が強まることになる。
		衣料品専門店(営業・販売担当)	・クールビズが更に浸透するため、スーツの販売量が減少する。
		乗用車販売店(経営者)	・ガソリン価格が4月から下がるものの、実際に家計に影響が出るまでには時間が掛かる。
		住関連専門店(店長)	・前回経営の大幅見直しを行った2000年ごろに続き、再度大幅な経営再編の時期にきている。冬ごろからの売上減少が止まらないため、大きく変わらない限り現状の打破は困難である。
		その他専門店〔食品〕 (経営者)	・販売価格の大幅な値上げを客に理解してもらえない状況にならない限り、上向くことはない。
		住宅販売会社(経営者)	・地価が下落しているほか、金融機関からの融資も抑制されていることから、いったん不動産業界は落ち込む。
住宅販売会社(経営者)	・サブプライムローン問題や日用品の値上げなどにより、消費マインドが冷え切っており、住宅分譲の環境は非常に厳しくなっている。チラシや住宅情報誌などによる集客状況もひどく、人が集まらない。		
企業 動向 関連	良くなる	木材木製品製造業(経営者)	・取引先からの受注量が増えているほか、新規の取引先も増えている。
	やや良くなる	家具及び木材木製品製造業(営業担当)	・最近では配達からの戻り時間が遅くなっていることから、配達量が増えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		化学工業（経営者）	・これまで止まっていた案件が徐々に動き出してきており、成型品などの金型の発注も増えている。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・ボーナス商戦が始まるほか、オリンピック商戦の激化により、薄型テレビやブルーレイディスクレコーダーなどのAV商品がこれまで以上に活発な荷動きになる。
		建設業（営業担当）	・当面は受注量が増加するものの、物価の動向次第では損益に大きな影響が出る。
変わらない		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・生産や販売が増加している顧客と減少している顧客があり、大きな変化はない。
		金属製品製造業（総務担当）	・建築基準法改正に伴う問題につき、今後どのように解消されていくのかが不透明である。
		金属製品製造業（管理担当）	・大型案件の受注が決まりそうであるが、利益率が悪い。
		一般機械器具製造業（経営者）	・直近で大きな案件はないものの、保守部品などの注文が多い。
		輸送業（営業担当）	・個人向けの荷物は好調であるが、企業間の荷物の量は伸びていない。
		輸送業（営業所長）	・新年度になるが、新規案件の話が聞こえてこない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・折り込み件数も横ばい状態であり、伸びているとはいえない。
やや悪くなる		食料品製造業（従業員）	・販売量は伸びているが、原材料価格の上昇による影響がすべての商品に出てきている。競合他社の出方次第で状況は変わるが、我慢比べをしているのが現状である。
		繊維工業（団体職員）	・安全性の高い日本製品に対する需要も増えつつあるが、全体的には受注が減少している。
		繊維工業（総務担当）	・受注量や催事の予定が減っている。
		化学工業（管理担当）	・どの取引先も先行きに対しては弱気の見通しであり、弱気が弱気を呼ぶ悪循環になっている。当面の対策としては、在庫の圧縮、稼働率の調整を行っているが、この状況が続けば実体面にも影響が出てくる。
		金属製品製造業（経営者）	・材料価格の上昇分を製品価格に転嫁すれば、荷動きの激減を招くことになる。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・住宅着工件数が少し回復してきているものの、今後大きく回復する見込みはない。景気の冷え込みや、マンション販売の停滞もあることから、上半期は昨年を割り込む。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・法改正による影響を大きく受ける産業では、政策によって産業自体が左右されるため、先行きがかなり不透明となっている。
		その他製造業〔履物〕（団体役員）	・受注の増加する材料が見当たらない上に、利益率も低下している。
		建設業（経営者）	・4月以降は生コンやガラスなどの建設資材が更に上昇する。そういったなかで、仕事量を確保するための競争もより一層激しくなる。
		建設業（経営者）	・4月からの建設資材の値上げに伴う影響が出てくる。
		輸送業（総務担当）	・決算期を迎えて倒産などが増えており、今後も業績の低迷が予測されるほか、顧客からの明るい情報も少ない。
		金融業（営業担当）	・取引先をみると、スレート製品製造業は原材料である鋼材で20%の大幅な値上げが予定されている。今後も鋼材などの原材料価格の上昇が企業収益を圧迫する状況が強まる。
		金融業（支店長）	・取引先の建売業者では広告の反響が全くないなど、消費マインドの冷え込みが厳しくなっており、先行きも不透明な状況となっている。
		不動産業（経営者）	・依然として分譲マンション、建売住宅用地の取得意欲は堅調であるが、物件選別の姿勢が厳しくなっている。
		不動産業（営業担当）	・不動産ファンドに資金が流れなくなったことで不動産価格が急速に低下し、不動産会社の経営も非常に苦しくなっている。さらに分譲マンションも売れなくなっていることから、先行きの見通しは非常に厳しい。
		広告代理店（営業担当）	・クライアントには4月以降に良くなる兆しがみられない。
		広告代理店（営業担当）	・今年に入って、月ごとに広告の受注量が落ちてきている。
		司法書士	・仕事量が減少している一方、現時点では未定であるものの、税率の変更が予定されているので悪くなる。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・全体的に買い控えがみられるなかで、受注の減少も顕著になっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	繊維工業（総務担当）	・消費者の購買意欲が低下しているため、当社工場から得意先への出荷が予定よりも遅れ気味になっている。
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・円高のほか、原油高騰による原材料の値上げにより、印刷業界にも影響が出てくる。今後は資材を少なくするほか、付加価値の高い製品の受注を増やす必要がある。
		化学工業（企画担当）	・ファンド資金の流入もあり、油脂相場は大幅な高騰を続けている。シカゴ大豆油の相場に連動して様々な原料が高騰を続けており、直ちに下がる状況ではない。
		金属製品製造業（営業担当）	・原料高を価格に転嫁できない状況は相変わらず続くほか、昨今の円高の影響で、その傾向がますます強くなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・受注の中心である航空機部品加工については、円高の影響で採算が悪くなっている。
		その他非製造業〔民間放送〕（従業員）	・テレビ離れに歯止めが掛からなくなっているほか、インターネットなどへの広告費流入が目立ち始めている。
雇用 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は前月比で0.01ポイントの上昇と、6か月ぶりに上昇している。新規求人数も2か月連続で増加していることから、当面の雇用失業情勢は改善の動きが弱まっているものの、改善傾向そのものは続いている。しかし、円高の進行や原油、原材料価格の高騰といった懸念材料が多いことから、今後の動向には引き続き注意する必要がある。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・例年、4月以降は一般派遣の動きが落ち着くものの、今年はIT技術者がかなり余っている。これは昨年との大きな違いであるが、派遣業界にとってはビジネスチャンスが増えることになる。
		人材派遣会社（支店長）	・周辺企業の状況がやや悪くなっているため、求人数は減少する。
		職業安定所（職員）	・4月から求職者は増えてくるが、求人への回復の見込みがないほか、物価の上昇による先行き不安も大きい。
		民間職業紹介機関（職員）	・そろそろ建設関連の求人が出てくるという期待はすっかり落ち込んでいる。
	やや悪くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・2009年3月卒業予定者の採用は前年以上に増加するとみられるなかで、早期に内定を出す企業も増えている。一方、一部の業界では景気減速を懸念し、採用を抑制する企業が出てきているほか、中小零細企業では倒産件数の増加もみられることから、先行きは不透明である。
		職業安定所（職員）	・全体としては不景気とはいええないものの、先行きの不透明感もあって求人募集が控えられている。
		職業安定所（職員）	・原油高、原材料高の対応の限界に達した企業が出てきているほか、今後好転する材料も少ない。
	悪くなる	職業安定所（職員）	・管内事業所では会社更生法の適用申請や廃業といった動きがみられる。それらの業種についても、製造業、サービス業などと幅広い。
-		-	

## 8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		百貨店（営業担当）	・今は新規ショッピングセンターのオープン効果で客を奪われている部分があるが、2～3か月後にはオープン効果も落ち着き、今ほど影響を受けなくなる。
		百貨店（販売促進担当）	・現在の時点で見ると、売上高、来客数共に回復の兆しが見える。暖冬で売上が低迷した冬物を春夏物で取り返したい。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・4月以降、価格設定を大幅に下げるため、やや良くなる。
		その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・競争の激しさ、食の安全性の問題も沈静化していくと考えており、やや良くなる。
		観光型ホテル（経理総務担当）	・4月からは、改装工事後の営業強化策もあり、現時点では、前年を上回る受注を受けている。ただし夏以降の見込みは不透明である。
通信会社（企画担当）	・当社扱いのサービスは為替水準にそもそも影響を受けない。インフレ懸念の中では、3月までの低調に比べて、年度明けから多少の上向きではないか。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・あらゆる手を尽くして、企画・店の再編成を行っており、統合を推進し、希望を持ってやっているの、悪くなることはない。
	変わらない	商店街（代表者）	・中心市街地活性化策を検討中だが、すぐに実行できる案も無く現状維持が精一杯である。
		一般小売店〔印章〕（営業担当）	・原材料費の値上げが多種にわたっているが、最近、紙の再度の値上げの申し入れがあった。製品の値上げは難しい現状で、経営を圧迫してくる。
		百貨店（営業担当）	・ガソリン税や一般食品の値上げが家計を圧迫するため、ぜい沢品である衣料品やおしゃれ雑貨にしわよせがくる。
		百貨店（販売促進担当）	・公務員、地元企業の給与カットも続き市場消費環境にプラス要因は見えてこない。また4月以降、生活必需品の更なる値上げも予定されており、今後景気が上向くことはない。
		百貨店（購買担当）	・衣料品のヤング部門は春夏物も順調に動き、そこそこ売上もあると思われるが、ミセス部門はトレンド商品のキーアイテムも見つからず、厳しい状態が続く。
		スーパー（店長）	・今後とも続く原材料及び商品の値上げの影響は大きく、買い控えは続く。たとえ、4月からガソリン代が下がっても一時的なもので、あまり関係はない。
		スーパー（店長）	・ここ1年くらい続いている販売点数・来客数の前年比103～104%という動きは、これから先も変わらない。また、値上げを含む客単価の上昇も、これから先しばらくは変わらない。
		スーパー（管理担当）	・来月からの価格値上げにより消費者の財布のひもが更に締まるようになる。そのため買上金額に変化はみられないかもしれないが、買上点数は控えられていくと思われ、景気が良くなる見通しはない。
		スーパー（販売担当）	・暖かくなり飲料の売上の伸びが期待できる時期だが、商品の冬商材から夏商材への変更の時期に更に値上げが予想され、これから先、売上の伸びが期待できない。
		コンビニ（エリア担当）	・既存取引先とのパイの取り合いにはなるが、当店が若干優位である。また、新規の取引先も2～3件増え、キャンペーンも行っている。ただし4月か5月に再び価格改定があるが、それがどちらに転ぶが少し懸念される。
		コンビニ（エリア担当）	・これから先も食料品の値上げは続く見込みで、景気が良くなる見込みはない。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・春物の動き出しが遅かったために、在庫が多く残っており、そのため全体の商品の回転が悪くなっている。初夏物の動きにも影響が出る。
		衣料品専門店（販売促進担当）	・まだまだ景気が良いとは思われないし、客の中には価格がまだ高いという人が増えてきており、相当価格に関しては敏感になっているため、高い物が売れにくくなっている。これから夏場は厳しい。
		家電量販店（店長）	・オリンピック間近になり、そこそこ販売できると思うが、価格競争が一段と激しくなっており、絶対額の確保が困難な時期を迎える。
		乗用車販売店（営業担当）	・今後も新規販売数は、あまり伸びないと思われ、既納客に対する台替・増車・紹介といった業務の更なる強化が大きなポイントになる。
		自動車備品販売店（経営者）	・ガソリン価格やその他日用品等の値上げの動きがどこまで影響するか読みづらく、この一進一退の動きは続く。
		高級レストラン（スタッフ）	・これから先3か月の予約状況は、良い月も悪い月もありで、トータルで言えば前年並みである。
		都市型ホテル（従業員）	・4月の宿泊団体予約は、昨年を越えているが、個人予約の伸びが弱くなっており、5月以降が懸念される。
		都市型ホテル（総務担当）	・政治情勢は不安定であり、原材料は引き続き高止まり状況にある。好転すべき材料が見つからず、よって変わらない。
		タクシー運転手	・当地のタクシー業界は、半分が値上げし、半分が現状維持という状況である。売上は、値上げした業者が2～3%増加し、値上げしていない業者が2～3%減少しているという状況である。この状態は2～3か月後も続く。
	タクシー運転手	・人の移動の時期であるので、かなりの動きがあると期待しているが、昨年をカバーするだけの観光・イベント等には大きく期待できない。夜の繁華街においても、平日は閑散としていて週末のごく限られた時間に集中している。4月については今と変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（総務担当）	・ 来年度に入っても、大手通信事業者の攻勢等により一段と厳しい状況が続く。デジタル契約移行についても、様子見の状況は大きく変わらない。
		テーマパーク（財務担当）	・ 季節的な変動を除けば景気に影響を与える要因が少ないため、今とあまり変化がない。
		テーマパーク（広報担当）	・ これからオンシーズンとなるが、ガソリン代が安くならないと、来客のほとんどを占めるドライブ客が増えない。
		住宅販売会社（販売担当）	・ 展示場・イベント・分譲売り出しへの来客数は前年並みに回復しているが、契約については客は相変わらず慎重で回復しそうにない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・ 政治も混乱しているなか、4月から値上げも本格的になり、生活防衛のため買物も慎重になるため、買い控える傾向はこれからも続く。
		商店街（代表者）	・ 経済の先行き不安で、財布のひもが固くなる。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・ 町が全体的にムードが悪い。値上げ値上げで、客が守りに入っている。島根県下では、85%の企業が赤字だという話もあり、これから先まだまだ耐えていかなければならない。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	・ 小さな我が町にある4年生大学の入学者数が、今までは約1,000人で推移していたが、昨年が3割減の700名で、今年は500人弱になる見込みらしく、大学のウエイトが大きいだけに、その影響はマンション経営だけに限らず、我々酒店や町全体に広がる。
		百貨店（売場担当）	・ 原材料の値上げで革製品や靴など販売単価が予想以上に上がっており、客の反応が非常に悪い。ブランド品であっても値段が上がっているものは売上で苦戦しており、この傾向は続く。
		百貨店（売場担当）	・ 春から夏にかけて数年ぶりに近隣郊外に大型ショッピングセンターが立て続けにオープンし、集客面でポディプロ的に影響が出てくる。駅前商店街の更なる空洞化が進みそうである。
		百貨店（販売担当）	・ 原油等の高騰に伴い、今後ますます物価の上昇が考えられ、消費マインドは低下する。
		スーパー（店長）	・ 当店取扱品については、素材等にこだわりを持つことで商品に付加価値をつけているため、一般市場より販売価格が高く設定されている。しかし、最近の客の動向を見ると、このような商品施策並びに販売施策は客に受け入れられにくい土壌になってきている。
		スーパー（財務担当）	・ 4月以降も原価の引き上げがあるにもかかわらず、価格競争が一段と激しくなることが予想され、利益率が悪化する。
		スーパー（経営企画）	・ ガソリンや一部食料品などの極端な値上がりがある反面、所得が比例して増える状況にはなく厳しい状態が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・ 異業種の競合も含め、出店過熱気味となっている。今後は更に厳しくなり、やや悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・ 2月初めに1.5キロほど離れたところに新規の競合店ができ、影響を受けている。これから先、その店が広く認知されるほど、当店への影響も大きくなり、売上ダウンが続く。
		コンビニ（エリア担当）	・ いろいろな食品の原材料の値上げに現実味が出てきているので、これから少し悪くなる。
		その他専門店〔カメラ〕（店長）	・ 今後ますますWEBによる購入が広まっていくが、ネット価格と競合するとすると、利益率が低くならざるをえない。
		一般レストラン（店長）	・ 夜の集客が悪いので、酒類の販売も厳しい状況である。ファミリー層の来店頻度減少が大きな要因である。
		一般レストラン（店長）	・ トータルとしての来客数は変わらないが、客もお金の使いどころを考えているようで、イベントのある時は来客数も単価も伸びるのだが、平常時は来客数がどんどん落ちていく。
		都市型ホテル（経営者）	・ レストランや客室部門での予約数が、対前年同期との比較で減少している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ 食料品等値上げが続くため、消費者の財布のひもは依然固く、外食控えがレストラン・宴会に今後も響く。
		タクシー運転手	・ 売上が前年比2～3%ダウンという状況は、この先も続く。
		通信会社（通信事業担当）	・ 年間を通してサービスへの問い合わせなどが一番多い時期のはずだが、非常に低調である。今後も状況が改善する要素が全く見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・ 訪問先の商談等においても、相手の厳しい状況が伝わってくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（販売企画担当）	・夏の商戦期までに新商品の発売がないことから、販売数増は見込めない。
		設計事務所（経営者）	・生活防衛傾向が更に強くなるため、客は消費に一層慎重になる。
		設計事務所（経営者）	・住宅ローン金利と建築物価の上昇がこれからも続く。
		住宅販売会社（従業員）	・来場数、客の反応共に鈍ってきているようなので、受注量への影響が減額方向にいく。
悪くなる		スーパー（総務担当）	・当社では「お客様の声」というアンケートを取っているが、「物が高くなって買物しづらい」、「もっと少額、少量パックの物を作ってほしい」等の物が多くなっており、これでは今より一層悪くなる。
		その他専門店〔書籍〕（従業員）	・競合店が5月に新店し、市場に対してオーバーストアになる。
		スナック（経営者）	・今年も3月一杯で商売をやめる店がたくさんある状態で、先に見込みはない。私も様子をみて、だめだったら5月一杯で店を閉じようと思っている。やはり飲酒運転撲滅運動の影響で飲み屋がだめになってきている。
		美容室（経営者）	・同業者で、今まで忙しそうにしていた店も景気が悪くなっていると聞く。新規出店も多く、値引き合戦の様相で、安売りの店が繁盛している。これから先が不安である。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	建設業（経営者）	・一般的に良くない状況が続いている。しかし、建築関係者からは建築基準法改定に伴い確認の遅れた分、少しは良くなるのではないかとこの話を聞く。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・受注残が多くあり、当面生産水準に変化はない。4月より価格改定を行うが、満足の出来る水準ではなく収益面では厳しい状況が続く。また、北京オリンピック時期の動向では、一部材料の入手が困難な状況になるのではないかと気になっている。
		鉄鋼業（総務担当）	・アジア方面を中心に新興国と呼ばれる国々で、鋼材需要はおう盛な状況にあり、輸出を中心に生産量も引き続き高生産が続くと予測している。しかしながら、主原料となる鉄鉱石・石炭の価格が大幅に値上がりする見込みであり、収益面では不透明な状況にある。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・自動車、携帯関連の好調だった受注計画が修正され、低調となっている。エアコンの受注は欧米、中国向けに強気含みで入ってきている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・受注が少なくなるクライアントもあり、増えるクライアントもありトータルでは変わらないか、やや良くなる。
		輸送業（統括）	・4月以降新規業務はあるが、契約解除の影響で収入はほとんど変化がない。
		輸送業（運送担当）	・ここ数か月物流量は変わらず少ないままである。今後も大きな変化は見込まれない。
		通信業（営業企画担当）	・通信サービス面では、新規開拓に結びつく魅力的な新商品等は当面期待できず、様子見的な情勢が継続する。
		金融業（業界情報担当）	・米国経済は減速しているが、欧州・アジア圏では引き続き堅調で、当面は高水準の受注を維持する。
	やや悪くなる	食料品製造業（総務担当）	・大手取引先から、納品を少なく見積もられているので、利益的にダメージが大きく先行きが見えない。
		化学工業（総務担当）	・4月以降原材料の値上げが目白押しの状況で、製品価格への転嫁がスムーズにいくかが不安材料である。
		鉄鋼業（総務担当）	・米国の景気悪化の懸念、急激な円高、中国のチベット問題に端を発する政情不安、先行き不透明な経済情勢等、景気に悪影響を及ぼす要素が多すぎ、楽観できない。
		金属製品製造業（総務担当）	・4月からの鉄原料の値上がりを受け、製品価格への転嫁を進めているが、ある程度認めてもらえる納品先、全く考慮されない納品先が半々であり、結果として収益状況は悪化の方向に向かう。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	・国内市場の冷え込みによる売上の減少と、生産資材の高騰による生産コストの悪化は、当面続く。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・受注先の来月の生産計画台数が、今月よりも約1万台も減っている。
その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）		・現状と同様値上げラッシュが予想される。	
建設業（経営者）		・建設業界においては、ここ1～2年がもっとも厳しい時期であり、各社ともぎりぎりの選択をせざるをえず、そのため入札価格についても厳しいものになる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	会計事務所（職員）	・例年3月は、年間の内でも売上高の上がる月で会社によっては数か月分の利益を一気に稼ぐ月なのだが、今年は利益の蓄積が出来にくい状態になっている。毎年、4～5月は売上が減少するだけに、不安を抱く経営者は多い。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（担当者）	・依然として採用したい企業からの、応募者不足の声が聞かれる。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・大手製造業では、コンプライアンス遵守により派遣利用から正社員雇用中心へと移行するケースが出ている。求職者が増加する可能性はあるが、今後採用する企業側の需要の先行きが不安である。
		職業安定所（職員）	・少子高齢化のなかで、企業が人材の確保のために、積極的に継続雇用制度の導入などで対応する動きがみられる。一方、新規求人については、今後も前年を下回る数値で推移する。
		職業安定所（職員）	・新規企業進出等の予定がなく、求人数が増加する要因がない。また、派遣や請負等の雇用機会が増加する一方、正社員の雇用が少なく、求職者の不安は解消されない。
		職業安定所（雇用開発担当）	・求人については、平成19年度後半から減少傾向で推移していたものが、ここに来て反転し増加の傾向を見せている。団塊世代の定年退職に備えて、人材確保のために中途採用を切り替えたものもあるが、純粋に労働力不足が生じたことから、企業の採用意欲が持ち直したものも含まれると判断される。
		民間職業紹介機関（職員）	・IT関連の地場大手企業の新年度正社員の中途採用人数が、総数50名強であったが、採用基準のハードルは低くはない。安定した生活が過ごせる雇用者の増加には、なかなか結びつく状況にはならない。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・製造関係の求人数は増加したが、女子学生が希望する求人数は変化がない。また、雇用形態も正社員求人数は減少気味である。
やや悪くなる	人材派遣会社（担当者）	・求人数の動きからあまり活況とは言えず、落ち着いている。	
	求人情報誌製作会社（支店長）	・先行き不透明感から、設備投資計画の見直しや、一部のメーカーでは希望退職を募るなどの動きが見られる。	
	職業安定所（職員）	・原油価格高騰の影響で材料費が上がるなか、即販売価格に転嫁するのは難しい状況もあり、今後の対応に頭を悩ませている企業が多くあり、結果として求人意欲が冷え込みつつある。	
	民間職業紹介機関（職員）	・金融、政府政策など不安定要素が多く、特に輸出企業の多い広島県においては、想定レートを上回る円高が進行していることの痛手は大きい。また改正建築基準法の影響もさることながら、県中心部の開発余地は少なく、建設建築系の伸びも期待できず、労働市場の冷え込みは避けられない。	
	悪くなる	-	-

#### 9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	家電量販店（店長）	・オリンピック需要で映像系が伸びてくる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・年間を通してのイベントにより、交流人口の増加が見込まれる。ゴールデンウィーク前から、盛りだくさんのイベントもある。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・新知事に代わり新年度、県内の公共事業の様子も変わってくる。
		コンビニ（経営者）	・気候も良くなり、人の出入りも激しくなって、売上は上昇する。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・これから先、暖かくなってくると、ビール関係が良く売れるので、景気は良くなってくる。
		観光型旅館（経営者）	・瀬戸大橋開通20周年記念ということで、大手旅行代理店のイベント、企画などがあり、4月以降は来客数が増えてくる。
		設計事務所（所長）	・1か月後に超大型の商業施設のオープンを控えており、少し良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
	変わらない	スーパー（企画担当）	・小麦・ビールなどの卸価格の上昇は、今後も続くが、量目調整など工夫をしているので直接的な影響は大きく出ない。		
		衣料品専門店（経営者）	・3か月ぐらい前は、公務員の給料が低下したこともあり、消費マインドを心配したが、3月の数字をみると、意外に堅調さを保っている。		
		衣料品専門店（経営者）	・円高などのため、購入時期の様子うかがいをしている。		
		家電量販店（営業担当）	・売れる商品が変わる時期であり、多少の期待感はあるが、来客数が悪くなっているため、回復傾向までとは行かない。		
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリン代の動向に左右されるため、売上が良くならない。一時的にでも、ガソリン代が値下がりすると、話題にはなるが、景気対策にはならない。		
		乗用車販売店（従業員）	・暫定税率の結論が出るまで様子を見ている客もいる。		
		一般レストラン（経営者）	・景気の後退などと言われており、財布のひもが固い。		
		都市型ホテル（経営者）	・現在の予約状況からすると、部門によっては悪いところもあるが、今とあまり変わらない状況で推移する。		
		通信会社（管理担当）	・新端末、各種割引サービスの開始など、販売が増大する条件は出そろう、これ以上、景気が上向く要素が少ない。		
		美容室（経営者）	・転勤、異動による新規客が伸びる。		
		美容室（経営者）	・各種値上げも消費者には慣れてきた様子があるが、消費を抑える傾向は続く。		
		住宅販売会社（従業員）	・住宅ローン減税も今年で終わるが、客に新築計画を急ぐ様子なく、計画自体を考えている客が減っている。		
		やや悪くなる		百貨店（営業担当）	・地方の車社会で、ここまでガソリンが上昇すると、来客数も減ってくる。客との会話で、株式が不安定なので買い控えているという話も聞く。
				百貨店（営業担当）	・ファッション商品は春物の動きが悪く、当用買いに終始している。ブランド商品も購入単価の低下傾向が見られ、高額品も例年に無く低調である。
百貨店（売場担当）	・セールを開催してもまとめ買いは少なく、必要でないものは買わない傾向が強まっている。物価の値上がりが懸念される中、消費増加にはならない。				
スーパー（店長）	・全体的な値上げ傾向が続いているので、このまま商品の単価が上昇すれば、景気は悪くなってくる。				
スーパー（財務担当）	・エネルギーや原材料のアップ、食品についても中国産冷凍ギョウザ問題から国内産が上昇傾向にあり、消費者にとってプラスになる要因がない。				
衣料品専門店（経営者）	・4月から身の回りの物価が上昇するが、特に衣料品は買い控えされやすい。				
衣料品専門店（経営者）	・生活必需品の値上がりが浸透してきており、衣料、ファッション関連の消費が後回しにされる危惧がある。				
一般レストラン（経営者）	・社会全体的に4月以降、更に値上げが予定されている。				
タクシー運転手	・4月に入り、値上がりすると、来客数が減ってくる。また、夏が近づいてくると、遍路の仕事も減ってくる。				
通信会社（支店長）	・好転する要素が見当たらない。				
悪くなる		一般小売店〔乾物〕（店員）	・仕入業者との商談は、ほとんど値上げの要請であるが、売値を上げることは難しい。ガソリンなどの諸経費も上昇しているため、利益の圧迫が懸念される。		
		スーパー（店長）	・公共建設の減少、県内の昇給は悪い状況で、さらにガソリン税や世の中の混乱など、悪くなる傾向にある。		
		乗用車販売店（従業員）	・決算期においても低迷し続けており、3か月後に良くなる理由がまったく見当たらない。		
		乗用車販売店（管理担当）	・購買意欲は、冷えきっている。		
		設計事務所（職員）	・行財政改革による地方財源の逼迫は、建設業界を直撃して久しく、この先、良くなる見込みがない。		
企業動向関連	良くなる	-	-		
	やや良くなる	通信業（営業担当）	・担当している各社共に、新年度に向けて新たな施策、営業力強化策を検討しており、明るい話題が多くなった。		
	変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・小売業者の抵抗が非常に強く、価格を上昇できず採算がとりにくい。商品のリニューアルや新しい商品化を導入する必要がある。		
電気機械器具製造業（経営者）		・依然として、円高、原材料高が継続する。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	建設業（経営者）	・原油や建設資材の高騰により苦しい状況が続く。
		広告代理店（経営者）	・地元資本の得意先の販売不振、先行き不安が強く、新年度広告費削減の話が多い。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・道路特定財源が廃止の方向ならば、ユーザーの建設汚泥関係の仕事量が減少する。改正建築基準法なども、今後の仕事減少に影響してくる。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・トラックの登録台数の前年比減少の傾向が止まらないことから、小型クレーンの販売台数への影響は避けられない。レンタル業界でも地域格差が大きくなっており、総じて稼働率が落ちてくる。
		輸送業（支店長）	・原油高で原材料の高騰・高止まりが続けば、転嫁できていない業種・中小の製造業は、経営環境が厳しく、先細りとなり中央との格差が更に開く。
		通信業（支店長）	・最大の商戦期が過ぎて端境期に入り、また市場に飽和感が出てきているので、受注量回復のきっかけとなるものがない。
		不動産業（経営者）	・相変わらず、住居・土地・建物の低迷が続いており、市内中心部の事業用地の取引も激減している。また、土地の価格も低下している。
		悪くなる	公認会計士
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・5月に新求人媒体を創刊するが、当社はその推進に携わるので、今後良くなっていく。
		学校〔大学〕（就職担当）	・年度替りを控えて、求人依頼は活発になっており、採用内定がこれから徐々に伸びる。
	変わらない	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・県主催のイベントがあるので、よさこい祭りとおわせ観光面で期待できる。
		職業安定所（職員）	・求人企業からは、原油高や原材料高の影響により、厳しいという声が多数聞かれ、今後も景気は悪いまま変わらない。
		職業安定所（職員）	・求人の増加について、明確な要因がなく継続するかどうか不明である。
	やや悪くなる	人材派遣会社（支店長）	・求人、求職ともに前年割れの状況が続いている。
		人材派遣会社（支店長）	・派遣登録希望者（＝求職者）数が増えている。
		職業安定所（職員）	・新規求人申込件数は、前年同月比で減少し、新規求職者数は増加した。
		民間職業紹介機関（所長）	・原油高、日常生活品の高騰により買い控え、様子うかがいが増えており、今後多方面に影響が出る。
	悪くなる	-	-

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街（代表者）	・市内で新たな開発計画が進み、人口の流入もある程度見込めるので、景気は回復する。
		コンビニ（エリア担当）	・タスポカード導入の影響で当店の来客数が伸びている。その効果から、今後も良い状況が続く。
		家電量販店（店員）	・北京オリンピック開催による需要増に加え、地上デジタル放送対応の需要増もあり、デジタル家電が更に普及する。内容としては今よりやや良くなる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・現状では、販売量もさることながら、来客数の増加も見受けられる。新年度ということもあって若干の需要増も見込まれるため、良くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・現在の予約状況から判断すると、やや良くなる。
		テーマパーク（職員）	・ゴールデンウィーク期間に向けてのステイプランの打ち出し、県のフラワーフェスタイベントと絡めた当社での春まつり企画等が始まっている。現時点での予約も動き始めているが、まだまだこれからの伸びに期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	商店街（代表者）	・消費者はメディアに大きな影響を受ける。ガソリンの価格も上がり、景気が良くなる話もないため、消費者は買い控えをし、実質収入も増えないことを懸念して購買には至らない。この傾向が今後も続く。
		商店街（代表者）	・今は卒業・入学・就職の時期で何かと物入りな時期であるにもかかわらず、石油の暫定税率の問題や商品の値上げ等の影響から客の買い控えがかなり深刻になっている。各家庭の生活がかなり深刻になってきている状況なので、今後も売上は変わらない。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・今年は時化が多く、満足に入荷がない。魚価も上がり、仕入れが大変なのに売上が上がらない。国産にこだわる人はいるが、金額で断念している。この傾向は変わらない。
		一般小売店〔食料雑貨〕（店員）	・飲食店では、原材料高騰に対応すべくメニューの値上げを検討しているが、客足が遠のくことを懸念し、実際には踏み切れないところが大半である。しかし、近日中の値上げは確実である。また、資金に余力があるところは今後大幅に値上げが予想される小麦粉や白絞油などを大量に購入している。駆け込み需要で一時的に売上が上がっても、4～6月期はその反動減が心配である。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・景気が悪いこともあり売上は減少しているが、地域にはマンションが多く、3月の異動による新しい客に期待できる。
		百貨店（売場主任）	・経済環境が不安定で、一般消費者が商品を積極的に購買するような状況ではない。ただ、業界では統合や、店舗の商号変更等でセールが大々的に行われるため、状況としては変わらない。
		百貨店（営業担当）	・買物目的の来客が多く、来客数は前年を下回っているが、レジ客数は前年並みである。正価品の売上シェアもやや高まり、必要な商品、関心度の高い商品の購入はある。ただ、衝動買いが減少している。
		百貨店（企画）	・個人消費が良くなっていく気配がない。先行きの消費マインドが不安である。
		百貨店（売場担当）	・衣料品についてみると、気温が高まるにつれて購買につながっており、必要なものは絶対買うという状況は変わっていない。ただし輸入品の値上げや原油高による値上げから、客の消費選択行動がかなりシビアになっている。また、商店街の来客数が減少し、空き店舗が増えている。大型店も3、4店舗あるが、景況感は変わっておらず、全体的には小康状態である。この傾向が今後も続く。
		百貨店（営業推進担当）	・厳しい商環境は変わらない。ただし、4月以降はイベント等の実施により、単月では上向く可能性はある。
		百貨店（業務担当）	・所得環境の改善が期待できる状況にはなく、さらに年金問題等、解決が先延ばしされているものが山積しており、当分消費に力強さが戻ることは考えられない。
		スーパー（店長）	・食品が値上がり傾向にあるが、競合店が値上げしないという店もあり、駆け引きが難しい。現在は改装効果で順調であるが、今後は厳しい状況が予測される。
		スーパー（店長）	・商品価格の値上げがある一方でガソリン単価の低下もあるため、先月とあまり変わらない。ただし、値上げ等による家計への影響が目につくようになり、財布のひもが固くなりそうである。
		スーパー（総務担当）	・戦略的に価格を下げた商品での需要は見込めるものの、今後の商品の値上げに伴い、必要最小限だけ買いそろえるという傾向が強まり、買い控えが起こる。
		スーパー（企画担当）	・春からの原材料・商品の再値上げの影響や、中国産冷凍食品問題を筆頭に、中国産原材料を用いた食品に対する不安感が増幅しており、最も買い控えの対象となる食品小売業は需要が冷え込む。
	スーパー（経理担当）	・他店との競合は依然厳しいものの、消費が縮小しているわけではないため、販売量は維持できそうである。	
	コンビニ（エリア担当・店長）	・今から花見の季節で一時的に来客数、単価が伸びることが期待できるが、それ以降の来客の継続はあまり期待できない。	
	衣料品専門店（店員）	・ひどかった秋冬よりは少しましになっている。秋冬に比べると単価はもともと低いが、更に低い単価の商品は枚数売ることで、もしくは高いものでも商品力を強めた営業をすることで何とか企業を存続していきたい。ただし、景気の面では非常に厳しく、何ひとつ良い材料がない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（企画担当）	・全体的に売上が低迷している。家電品はオリンピックを控えて調子が良いはずなのだが、停滞傾向にある。この傾向が今後も続く。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の仕入価格が高止まりしており、暫定税率期限切れの件で一時的な買い控えや特需があると思うが、大きな変化は考えにくい。
		高級レストラン（経営者）	・2、3か月先の予約状況は芳しくなく、景気は下向きである。
		スナック（経営者）	・まだしばらくは、厳しい現状からの出口が見つかるような要素がない。
		都市型ホテル（総支配人）	・需要拡大が望めるイベント開催や新規企業の参入等の情報が聞かれないため、現在の傾向が続く。
		都市型ホテル（副支配人）	・4～6月は大きなコンベンションがないことと、先の見通しが非常に読みにくくなり、1週間先を読むのに一生懸命な状態である。
		旅行代理店（業務担当）	・円高は海外旅行にはプラスに働くものの、逆に円高に伴う輸出関連企業の不振や原油高による燃油サーチャージの値上りへの影響も大きく、トータルでは変わらない。
		タクシー運転手	・景気が停滞しているなかでは、客の財布のひもは緩まない。現在の傾向が今後も続く。
		通信会社（業務担当）	・4月は新入生需要および法人需要で前半は販売の好調が続く、さらに新サービスをきっかけに買い換え需要が伸びるが、新規需要は頭打ちになる。
		観光名所（職員）	・NHK大河ドラマ放送の影響で前年よりも良くなるが、それを除けば例年並みである。また、消費が落ちていると感じるため、これからも消費の緊縮傾向が続く。
		ゴルフ場（支配人）	・石油高により徐々に物価は上がりつつあるが、景気全般として急激な変化はない。
		ゴルフ場（従業員）	・4月の来客数は昨年を大きく上回るが、6、7月と動きが鈍い状況であり、今とさほど変わらない。
		美容室（経営者）	・4～5月は美容の繁忙期となる。おしゃれシーズンになるので期待したいが、現在の傾向をみると、良くならない。
		理容室（経営者）	・例年良くなる3月がほとんど先月と変わらない数字であるため、この傾向が続けば今後は悪くなる。
		美容室（店長）	・前年より客数が減少している。周りの状況を見ても、このままでは景気は良くならない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・ガソリン税の問題や中国産食品問題による食に対する不安、国産食料品の値上げで消費者に節約ムードが広がり、先行きは懸念材料が多い。景気は悪くなる。
		百貨店（営業担当）	・気候が良くなるため期待したいが、百貨店で取り扱う高額品などは買い控えが出る。
		百貨店（営業担当）	・株価がなかなか上がらないため、高額品の需要が見込めない。また、食料品関係も今後値上げが続くため、やや悪くなる。
		スーパー（店長）	・ガソリンは安くなるかもしれないが、食料品は値上がりをする商品が多いという状況が続いているので、景気は良くなる傾向にない。
		スーパー（店長）	・競合店の出店、既存店ベースでの競争などが続く。客の消費動向も、今の経済状態では好転するとは考えにくく、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（総務担当）	・諸物価の値上がりやガソリンの高騰、不安定な政治等、様々な要因で客の自己防衛が働き、今後も消費は減少傾向となる。
		コンビニ（販売促進担当）	・富裕層の客がかなり減っている。今後は材料等が値上がりしてくるので120、130円台の商品が多くなるが、100円前後が一番売れる商品群であるため、全体の売り上げは若干落ちにくく。
		家電量販店（店長）	・原油高で商品価格が上がっているため、これから景気が良くなるとは考えられない。
		住関連専門店（経営者）	・消費者の中国製品などを避ける動きが食品分野などであるが、置き家具においても国産品の見直しが少し出てきている。ただ、諸物価の上昇で消費者の財布のひもは固く、先行きは厳しい。
		高級レストラン（経営者）	・4月以降の予約状況を見ると非常に悪い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（スタッフ）	・今期は近年まれにみる売上を確保することができたが、4月以降の予約状況は前年を下回っている。また同時に原価の高騰により、今期に比べ利益率が落ちることは確実である。
		観光型ホテル（営業担当）	・これまでも一部で食材の値上げがあったが、4月より新たに飲料関係の値上げの打診がきており、今後、飲料等の売上への影響が出てくる心配がある。また、商品の値上げから、飲み放題プランの対応が厳しくなる。
		旅行代理店（従業員）	・4～5月の出足は悪い。売れているのは国内の低価格商品であり、海外の円高プラス効果はまだ現れていない。
		タクシー運転手	・所得が増えないなかで物価だけが上がっており、財布のひもがどんどん固くなっている。消費に回る余裕が少ないので、今後も期待できない。
		通信会社（企画担当）	・有力取次店の体制変更起因して、契約獲得の減少が予想される。
		通信会社（総務担当）	・ガソリン・原油の高騰に伴う不況感是否めず、これによる諸需要の低下が顕著である。個人消費も徐々に悪化しており、今後の身の回りの景気はやや悪くなる。
		競輪場（職員）	・減少傾向にあった来場者数は下げ止まりの傾向にあるが、前年より10%減少している。目に見える形での景気の回復傾向はみられない。
	設計事務所（所長）	・仕事の数が減っている。全体的に良くない。	
	悪くなる	衣料品専門店	・4月から保険制度が変わり、出費が多く、物価が上がっている。買い控えるとしたら洋服、ぜいたく品になるため、先行きは不透明である。
		衣料品専門店（店長）	・3月に入っても客足が商店街から遠のき、回復の兆しは依然としてない。生活関連各種商品の値上げがじわじわ浸透しており、買い控えに一層拍車をかけている。
		衣料品専門店（総務担当）	・客足と客の買物の様子を見ても、購買意欲が感じられない。この傾向が今後も続く。
		乗用車販売店（従業員）	・主要部品が全然売れない。この傾向が今後も続く。
		競馬場（職員）	・前年より販売量は微減が続いていたが、今月になり急に下げ幅が大きくなった。原因がわからないため具体策がすぐに打ち出されず、今後は更に悪くなる。
		美容室（店長）	・いろいろな物価が上がるため、不況になる。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	不動産業（従業員）	・マンションの販売が順調に推移している。今後も良くなる。
		経営コンサルタント	・かなり人の出が多くなり、売上も回復している。今後ガソリン税の廃止等のプラスの要因で人の動きが少し良くなる。ただ、長期的にみると建築業等の企業の不安定な部分が出てきて、不安要因はある。
	変わらない	農林水産業（経営者）	・中国産食品の問題からくる風評被害で、国内の冷食メーカー向けも少し引き合いが弱くなっているが、逆に国産志向にこだわった商品がスーパーなどを中心に伸びてきている。結局プラスマイナスゼロである。居酒屋向けは行楽シーズンから夏場にかけて消費の伸びが期待される。
		農林水産業（従業者）	・飼料の値段は非常に上がっているが、プロイラーの需要がひっ迫しており、国産志向ということも含めて良い状況である。
		食料品製造業（経営者）	・NHK大河ドラマが始まり3か月が経過したが、関連する観光客は増加したものの、それ以外が減少しているため、納入先の業績はほとんど変わらない。NHK大河ドラマがなければ景気は悪くなっていったため、今後、今月より景気が良くなるとは考えにくい。
		繊維工業（営業担当）	・良い条件がまったくない。繊維、縫製の生産は中国から東南アジアの方に移行しているので、国内の工場は厳しい。
		鉄鋼業（経営者）	・住宅着工戸数や着工床面積は相変わらずマイナスが続いているが、その度合いは徐々に回復し、それが販売量の回復に繋がってきている。しかし、これが実需に基づくものか、仮需なのか、あるいは年度末という時期的な要因なのかを分析する必要がある。今後、円高、原料高による資材高騰等で新規需要が減少することが強く懸念される。新規建築物件では、設備投資の取りやめも出てきている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・客の声等から判断して、当分は現在の停滞状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（総務担当）	・資材の高騰や景気の悪化による個人住宅の着工減少はしばらく続く。
		輸送業（従業員）	・荷動きは、先月までは業種によってばらつきがあったが、今月に入り、紙、パルプ、飲料、雑貨、鉄等、どの業種でも悪くなっている。なかなか今後も期待がもてない。
		輸送業（従業員）	・3月に入り、荷動きが活発になってきているが、駆け込み需要の影響が大きい。4月に入ると短期的に暫定税率廃止の好影響があると予測するが、再可決されて復活すれば、原油高騰の影響もあり、景気は再び悪化することが懸念される。
		通信業（職員）	・来年度の折衝案件の増加量はわずかである。景気の状態は変わらない。
		金融業（営業担当）	・中小企業全般で、新たな設備投資の計画が見受けられない。当面は固定費の削減に意識が向かう。
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・原料資材等の値上がりにより製品の値上げを行ったが、値上げ前に仮需要がかなりあったため、今後しばらくは売上が上がらない。
		金属製品製造業（企画担当）	・原材料の高騰や運送費の値上げ要求等、損益悪化要因が後を絶たない。一方で値上げ分を価格に転嫁できにくい状況であるため、今後も厳しい状況が続く。
		一般機械器具製造業（経営者）	・来月は以前からの仕事が受注できる予定なので、今月ほどは悪くならないが、景気は徐々に悪くなってきている。
		通信業	・新年度の初頭はしばらく悪い。ただし、その後は九州新幹線や次世代通信等の関連案件が出るため、持ち直す。
		金融業	・原価の上昇や建築確認申請の遅延を原因とする中小企業の破綻がみられる。また、製造業は円高への対応が厳しい。株安の心理的な影響による消費の停滞もあると考えられる。今後、これらの影響はますます強まる。
		金融業（調査担当）	・これまで域内経済をけん引していた輸出産業が、サブプライムローン問題による米国経済の低迷や円高等の影響を受けることが懸念される。
	悪くなる	その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	・取引先の状況は、原材料価格の高騰等から依然として設備投資の抑制が続いている。加えて、最近は大倒産や支払い延滞件数の増加等がみられており、今後、中小企業を取り巻く環境はますます厳しくなる。
		家具製造業（従業員）	・建築関連の企業にとって建築確認申請の遅れは深刻である。遅れにより、出店を取りやめた企業も多い。また、新規住宅が少ないため、連動して家具の売行きも鈍っている現状であり、景気がすぐに上向き要因がない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・電子部品の金型を取り巻く環境は全般的に不透明さを増している。特に受注量の減少が大きく、また受注しても非常に短い納期を要求されるという状況であり、景気の先行きが全く読めない。電子部品金型も機械部品も非常に悪い。
建設業（従業員）		・アメリカのサブプライムローン問題や原油高騰等による原材料の値上がり等で、収支に悪影響が出ている。また、受注競争の激化により、なかなか受注に結びつかず、利益確保も困難になる。この傾向が今後も続く。	
広告代理店（従業員）		・新聞折込広告は、相変わらず受注量が増えない。単月で前年比98%、通期で同95%となり、減収となった。百貨店が閉店する等、今後も消費の拡大は望めそうにない。	
	経営コンサルタント	・量販店の大型倒産が続いている。銀行の貸し渋りにつながり、更なる不安材料となっている。	
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	-
	変わらない	職業安定所（職員）	・原油等原材料の価格高騰分を価格転嫁することが困難な中小企業を中心に、景気の先行き不透明感がある。その影響で、業務量が多く求人をしたいができないという企業も少なくない。このような状況はここ数か月続いており、すぐに改善するとは考えにくい。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・求人数は増えているとはいえ、雇用形態についてはまだまだ非正規社員の採用が多い。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（経営者）	・周りから受ける印象はかなり厳しい。雇用の形態をみても、アルバイト、パートが相変わらず多いし、契約社員やパートを正社員として雇用するというニュースを聞くが、一般的にはない。4月からは電気、ガスが値上がりする等、値上げが生活の基本的なところまで及んできているため、今後、景気は悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌製作会社（編集者）	・介護業界において、早朝・深夜・休日などに働く労働者の確保が難しく、慢性的な求人難が続いている。同様に学校や病院給食、ビルメンテナンスなどで働くパート労働者も低賃金のために年々確保が難しくなっている。企業は人材不足という経営難に陥っている。
		職業安定所（職員）	・2月以降人員整理を伴う事業縮小を図る企業が目立っており、新規求職者の増加が懸念される。
		職業安定所（職員）	・原油高等の影響で運輸業からの求人が減少しており、この先も好転する要素が見つからない。
		民間職業紹介機関（職員）	・先月に続き、企業求人ニーズが低下傾向にある。特にゼネラル系管理職については、前年比40%減と低迷している。この傾向が今後も続く。
		民間職業紹介機関（社員）	・4月からの事務派遣が前年比10%程度減少している。従来求人のように1～2人というものは激減している。直接雇用の動きも鈍くなり、紹介事業も落ち着きをみせている。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・企業コメントに「下期は下方修正」の予想を聞くようになってきた。また、求人数も多少抑制気味である。
		学校〔大学〕（就職担当者）	・景気の不透明感から、採用計画に何らかの影響が出てくる懸念される。採用数充足のために採用基準を緩やかにすることは考えにくい。今後、採用環境はやや厳しくなる。
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・半導体関連・鉄鋼関係は好調と聞くが、その他は目立って良い業界がなく、地盤沈下は進みそうである。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・原料、容器等の値上げが広告費の削減に及んでいる状況が更に進む。	

#### 11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	衣料品専門店（経営者）	・3月の前半は、前年に対してあまり良い動きをしていなかったが、後半にかけて徐々に良い感じがしてきている。全体的に見ても、良くなる兆しがみえている。
	変わらない	一般小売店〔衣料品・雑貨〕（経営者）	・数年前から観光客向けの物販は伸び悩んでいるが、3月の状況からして今後も期待ができない状況である。今後は地元客向けの商品開発も進めながら売上アップを計る。
		スーパー（経営者）	・今月はほぼ前年並みの売上を達成している。ただし、商品の値上げは依然として続いており、今後客の買い控えの傾向が表れてくると厳しい状況になる。
		コンビニ（エリア担当）	・賃金アップは無しといった背景から、客の購買意欲は上がることなく現状のまま推移する。パンやラーメン等の値上げ部門の売上増はあっても、全体の売上増にはリンクしていない。
		観光型ホテル（営業担当）	・ゴールデンウィークの予約状況は決して良くないが全体的にはまあまあの数字である。
		通信会社（店長）	・特に主だった景気刺激策が無い。
		観光名所（職員）	・4月以降の沖縄への入域観光客は、原油高に伴う航空運賃、諸物価の高騰の影響により厳しい状況が予想される。しかし、沖縄はこれから夏本番を迎え、海に関するイベントが実施されることから前年度並みの入域観光客数は維持できる。
	やや悪くなる	コンビニ（経営者）	・前年より売上高は減少している状況である。客数が減っているため、悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・県内景気が好転する様な社会情勢ではなく、4月1日からの各種値上げにより、買い控えはなお進む。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・観光客の春休み・入学シーズン等、例年の季節感のある売上シーズンが今回は期待できない。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・再生紙問題や原油高騰により、仕入れ値の値上げが徐々に始まってきている。消費者は最近シビアなので必要最低限の商品しか購入しない。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・地元の客の外出回数が減っていて、なおかつ徹底した低価格帯にシフトしており、東京のような高価格帯の店舗の需要はまだ少ない。
	観光型ホテル（商品企画担当）	・ゴールデンウィーク明けの集客が悪く、5月全体では前年比で6～7%下回っている状況である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（サービス担当）	・携帯電話業界は他社との競争が激しく、先がみえない。
		ゴルフ場（経営者）	・基本的には低単価による集客が全体的に否めない感がある。特に、例年の中北部のコースにも当てはまるが、キャディ無しのセルフでのプレイなどの、安価による集客が影響し、売上の的にもかなり厳しい状況にあるとみている。
		その他のサービス〔レンタカー〕（営業担当）	・今年の4月のゴールデンウィークは、日並びが悪いせいか、予約状況が前年に比べて悪い状況にある。
	悪くなる	商店街（代表者）	・中心商店街と呼ばれる「マチグラー」のエリアは、買い回り商品の店は段々減って、ほとんど観光関連である。土産品店や飲食店になりつつあり、お互いに客を奪い合い、客割れの状態が起こっている。地元客は外周部の大型店を利用しているため、現在商売は大変危機的な状況下に陥っている。
		百貨店（担当者）	・更に生活防衛感が増大し、消費が低迷する。主力の衣料部門は季節と件の影響や生活防衛感から来る消費の低迷の影響を強く受け、今後も苦戦傾向は継続する。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	建設業（経営者）	・改正建築基準法での着工遅れがそろそろ動き出す。
	変わらない	輸送業（営業担当）	・物流の需要はあっても、燃料高騰に伴う収益の圧迫は更に増している。各メーカーや小売店での燃料高騰に伴うコスト増について、商品への転嫁は徐々に進んでいるが物流業界の物流費への転嫁は足踏み状態が続く。
		会計事務所（所長）	・クライアント企業の客単価の改善は、当面感じられない様子である。
	やや悪くなる	食料品生産業（管理部門）	・円高傾向は好影響をもたらすが、それ以上に原油高騰や主原料価格高騰によるマイナス影響が発生している。
		通信業（営業担当）	・サブプライムローン問題の影響で設備投資等に影響があると考えられる。仕事量が減少の方向にある。
	広告代理店（営業担当）	・県内の一般企業を中心に、この先の一般消費動向の先行きが見えないという意見がかなり出ているという状況から、民	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・今月までは契約・売上共に伸びているが、諸経費の高騰がどのくらい影響を及ぼすが不透明である。中長期契約が多く大きな数字の変化は無いとみられるが、短期・単発の依頼が続くかどうか分からない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・県外の新規求人数の増加は見込めるものの、県内企業の動向が不明であるため劇的に求人が増加する見込みはない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・県外の求人がおう盛であるのに比べて、県内の求人の勢いが前年に比べて弱い。また、県内企業の求人が年度替わりのため、これからの動向をみなければよく分からない。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（営業担当）	・求人数の減少を感じる中、企業の採用活動が春の就職シーズンにもかかわらず動きが鈍い傾向を感じる。採用の鈍化から、企業の業績が横ばい又は下降傾向があると推測される。
職業安定所（職員）		・原油、原材料の高騰等、景気を支えたといわれる輸出産業への円高の悪影響もあるが、公共料金・社会保障費・物が軒並み高くなり出費が増す状況で消費者の節約意識が高まり、消費が鈍化すると懸念される。企業の今後の景気判断のマイナス修正等からも先行き不透明である。	
悪くなる	-	-	